国際ロータリー第 2840 地区［群馬］2026–2027年度

Vol.5
2026.11
ガバナー月信

GOVERNOR'S
MONTHLY LETTER

To all Rotary members in RID2840



Rotary
District2840

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER
To all Rotary members in RID2840

CONTENTS

ガバナーメッセージ

「ロータリー財団月間」…… 02

ガバナーからの問いかけ

「奉仕の理念を考える② ―理念は、振る舞いに現れる―」…… 07
「ガバナーという時間を考える」…… 13
「ガバナーとして、誰とともに進むのか」…… 17

地区委員会委員長紹介 …… 20

各種報告

令和 8 年熊本地震支援金についての報告 …… 21
第 2 回参加意欲向上委員会 …… 22
米山記念奨学生カウンセラー研修会 …… 24
米山記念奨学セミナー …… 25
青少年交換派遣学生帰朝報告会 …… 26
青少年交換受入学生歓迎会 …… 28
第 2 回地区事業検討特別委員会 …… 29
RLIセミナー　Part II …… 30
第 2 回RYLA・学友委員会 …… 32
第 3 回ガバナー補佐・委員長合同会議 …… 33
第 5 回地区ラーニング・管理運営委員会 …… 40
ローターアクト活動報告 …… 41

お知らせ

2026-2027年度 ガバナー公式訪問要領・ガバナー公式訪問日程表 …… 42
2026-2027年度 地区主要行事予定表 …… 46
2026-2027年度 周年行事・IM 予定表 …… 48
出席報告・My Rotary 登録率 …… 49
新会員紹介 …… 51
新会員入会実績報告（9 月末日現在） …… 52

ガバナーコラム

・ 会長の言葉は、誰に何を伝えるのか …… 53
・ 聞く、読む、その先に …… 57
・ 問い続ける姿勢を大切に …… 60

ガバナーの独り言「ロータリアンである前に」…… 62

文庫通信「 文庫通信 395 号：職業奉仕」…… 63
ガバナー月信の表紙について …… 64
ガバナー事務所よりお願い …… 65

ガバナーメッセージ

ロータリー財団月間

― ロータリーの理念を、社会に生きる力に ―

ロータリーの中に、財団を位置づける

11 月は、ロータリー財団月間です。

財団への理解を深めるとき、寄付や補助金の仕組みを知ることは大切です。しかし、その仕組みが、ロータリー全体の中でどのような役割を果たしているのかにも、目を向けてみたいと思います。

国際ロータリーは、ロータリーを、クラブ、国際ロータリー、ロータリー財団の三つの柱で説明しています。地域に根ざして活動するクラブ。その活動を情報や方針、さまざまな資源によって支える国際ロータリー。そして、人道的な活動や教育を、補助金や奨学金によって支えるロータリー財団です。[1]

制度上、国際ロータリーとロータリー財団は別法人であり、それぞれ理事会と管理委員会によって監督されています。[2]

しかし、私たちの奉仕を考えるうえでは、そのつながりを理解することが大切です。クラブで育まれた信頼や職業を通じた経験、奉仕への思い。それらを、地域や世界の課題に取り組む力として生かすために、財団があります。

私は、ロータリー財団を、ロータリーの理念を社会の中で具体的に生かすための、私たち共通の基盤として捉えたいと思います。

財団の活動は、何を目指しているのか

ロータリー財団の使命は、健康状態の改善、質の高い教育の提供、環境保護、貧困の解消を通じて、ロータリー会員が世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。[3]

ここで大切なのは、個々の支援の先に、世界理解、親善、平和が置かれていることです。

健康を支えることは、安心して暮らせる日常につながります。教育への支援は、その人が自分の将来を選ぶ可能性を広げます。貧困への取り組みは、人が尊厳を持って生き、自らの力を発揮できる条件を整えることにつながるでしょう。

こうした一つひとつの活動が、人が安心して暮らし、互いを理解し、尊重できる社会の土台をつくっていく。私は、そこに財団の活動が持つ意義を見ることができます。

インパクトから、地域を見る目を深める

その意義を、私たちの願いや期待にとどめず、実際に生まれた変化から確かめるために、インパクトという視点が大切になります。

これは、私たちの地域での活動にも、そのままつながることです。

例えば、子どもたちに学用品を届ける活動があるとします。その品物が役立つことは、もちろん大切です。しかし、そこで子どもたちや支援に携わる人の声を聞けば、学ぶ場所がない、分からないことを聞ける相手がいない、将来について話せる大人が身近にいないといった、別の課題に気づくかもしれません。

その気づきから、学校や地域の団体と協力し、安心して学べる場や、さまざまな職業の人と出会う機会をつくることへ、活動が広がる可能性もあります。

そこで確かめたいのは、子どもたちが学び続けられるようになったか、困ったときに相談できる相手ができたか、自分の将来を考える選択肢が広がったか、ということです。その変化を、子どもたち自身がどう感じているのかにも、耳を傾けたいと思います。

身近な地域であっても、私たちには見えていない暮らしや思いがあります。一つの活動を通じてそれに気づき、理解を深め、関わり方を見直していく。その過程に、ロータリアンの職業や経験、人とのつながりを生かす余地があるはずです。

私は、インパクトを考えることは、地域を見る目を深めることでもあると思います。

活動の先にいる人の暮らしに関心を持ち、その人たちとともに、変化への道筋を考える。財団の力は、その取り組みを支え、より確かなものにするために生かせるでしょう。

そうして、身近な地域に、安心や信頼、自分の可能性を信じられる機会を増やしていく。そこに、私たちの日々の奉仕と、世界理解、親善、平和を目指す財団の使命とのつながりが見えてきます。

クラブの自立と、世界とのつながり

それぞれのクラブには、大切にしてきた活動があり、地域との関係があります。その自主性や特色は、尊重されなければなりません。

そのうえで、ロータリーには、地域に根ざしたクラブが、世界につながっているという特徴があります。

財団への寄付は、自分のクラブでは出会うことのない人たちへの支援にもなります。一方、私たちが財団の補助金を活用するときには、他の地域や国の人たちの思いにも支えられることになります。

自分たちが寄付した分を、自分たちのために使う。それだけでは捉えきれない関係が、そこにあります。

誰かが支えた力を、別の誰かが必要な場所で生かす。その関係を、世界中のロータリアンが担っています。

地域のクラブとして活動しながら、世界に対する責任の一端も引き受ける。財団は、そのつながりを具体的なものにしているのだと思います。

財団を支えることは、自分たちの活動を支えるとともに、まだ会ったことのない仲間の奉仕を信頼し、その可能性を支えることでもあります。

善意を託されるという責任

その信頼を受け取る側には、責任があります。

財団の資金には、多くの人の善意が託されています。だからこそ、その活用には、目的の明確さ、適切な管理、結果を伝えることが求められます。

例えば、グローバル補助金では、持続可能で測定可能な成果をもたらす活動が重視されています。[4]

そのための計画や手続きを、申請を通すためだけのものとして受け止めてしまっては、もったいないと思います。

なぜ、この方法が必要なのか。

支援を受ける人たちは、計画にどう関わっているのか。
活動が終わった後を、誰が担うのか。
託された資金を、どのように生かしたと説明できるのか。
こうした問いに向き合うことは、私たち自身の奉仕を確かなものにします。

インパクトへの責任とは、自分たちだけで成果を約束することではないでしょう。地域の人たちや協力者と変化を確かめ、うまくいかなかったことにも向き合い、必要であれば方法を見直していく。その姿勢を持ち続けることだと思います。

財団の仕組みを学び、活用する過程は、善意を、相手にとって意味のある支援へと育てる学びの機会にもなるはずです。そして、その経験は、財団の補助金を使わない活動にも生かされていくでしょう。

奉仕を通じて、ロータリー自身も育つ

財団を通じた活動では、支援を受ける人たちだけでなく、私たち自身にも変化が生まれます。

異なる職業や文化を持つ人と考える。相手の声によって、当初の計画を見直す。思うように進まないことから学び、次の方法を探す。
そうした経験を通じて、私たちの視野や判断も育っていきます。
国際的な活動であれば、国と国という大きなくくりの向こうに、名前を持ち、暮らしを営む一人ひとりが見えてくるでしょう。身近な地域で得た気づきが、遠くの地域の課題を理解する手がかりになることもあるはずです。

私は、こうした経験の積み重ねが、世界理解や親善を、私たち自身の実感にしていくのだと思います。

ロータリーで培ったものを奉仕に生かし、その奉仕から得た学びを、会員とクラブに持ち帰る。財団は、この循環を支える役割も果たしているのではないでしょうか。

私たちの財団として

財団を支えることと、財団を生かすこと。その両方に関心を持つことで、財団は、私たちにとって身近なものになります。
寄付を託す人にも、活動を担う人にも、その先にいる人たちの姿が見えること。成果だけでなく、難しかったことや、そこから学んだことも共有されること。その積み重ねが、次の信頼を育てます。

この財団月間には、寄付額や補助金の活用実績とともに、財団を通じて、自分たちが何を学び、誰との理解を深めてきたのかも、振り返っていただきたいと思います。

私たちのクラブの活動は、財団の使命と、どこでつながっているでしょうか。
そして、その活動を通じて、私たち自身は、どのようなロータリアン、どのようなクラブへと育っていけるでしょうか。

ロータリー財団を、私たちがともに支え、ともに生かし、その働きに責任を持つ「私たちの財団」として考える月間にしたいと思います。

参考資料・出典

［1］国際ロータリー「ロータリーのしくみ」
https://www.rotary.org/ja-jp/who-we-are/our-structure
［2］国際ロータリー「財務情報」
https://www.rotary.org/ja-jp/who-we-are/our-finances
［3］国際ロータリー「ロータリー財団」
https://www.rotary.org/ja-jp/who-we-are/the-rotary-foundation
［4］国際ロータリー「補助金」
https://www.rotary.org/ja-jp/get-involved/our-programs/grants

ロータリー財団月間のリソース

財団の使命や活動への理解を深め、地域での気づきを、より確かな奉仕につなげるために、以下の資料をご活用ください。

◆ ロータリー財団
財団の使命、歴史、寄付が生かされている活動を紹介しています。財団が何を目指しているのかを、クラブで共有する際にも役立ちます。
https://www.rotary.org/ja-jp/who-we-are/the-rotary-foundation

◆ 奉仕プロジェクトセンター
活動事例の閲覧・共有に加え、プロジェクトの計画や管理、協力者探しに活用できます。「リソース」や「インパクト」のページには、活動を深めるための資料やガイダンスも用意されています。
https://spc.rotary.org/

◆ ロータリー行動グループ
特定分野の専門知識を持つ人たちが、プロジェクトの計画・実施を支援しています。専門的な助言や、協力者・資金・資源を探す手助けを得られます。
https://www.rotary.org/ja-jp/get-involved/our-programs/rotary-action-groups

◆ パートナーシップ
ロータリーと協力する団体や、連携のあり方を紹介しています。互いの専門性や資源を生かし、活動のインパクトを高めるための参考になります。
https://www.rotary.org/ja-jp/who-we-are/partnerships

◆ ラーニングセンター
財団や補助金、奉仕活動などについて学べるオンライン学習の入口です。クラブでの理解を深めるためにもご活用ください。利用には My ROTARY へのログインが必要です。
https://www.rotary.org/learn
財団の仕組みと活動を知る資料

◆ ロータリー財団概要資料
財団の活動や寄付に関する概要を確認する資料です。以下の公式ページ内「プロ仕様の印刷リソース」から、掲載資料の年度を確認してご利用ください。
https://www.rotary.org/ja-jp/who-we-are/the-rotary-foundation

◆ 国際ロータリー・ロータリー財団 年次報告・財務報告
活動の成果と、それを支える資金の使途を確認できます。財団に託された寄付が、どのように生かされているかを知るための資料です。
https://my.rotary.org/financial-reports

◆ ロータリー財団参照ガイド
財団の使命、プログラム、補助金、寄付や認証などを総合的に確認するための資料です。
https://my.rotary.org/ja/document/rotary-foundation-reference-guide

◆ ロータリー財団の補助金
地区補助金、グローバル補助金、災害救援補助金、大規模プログラム補助金の目的と特徴を確認できます。活動の目的に合った支援の仕組みを考える際に役立ちます。
https://www.rotary.org/ja-jp/get-involved/our-programs/grants
インパクトを考えるために

◆ 奉仕プロジェクトセンターのリソース
地域の課題をどう捉え、活動を計画し、その結果をどう確かめるかを考えるための資料やガイダンスを探せます。財団の補助金を使う活動に限らず、クラブの奉仕全般にご活用ください。
https://spc.rotary.org/resources

ガバナーからの問いかけ 1

奉仕の理念を考える②
― 理念は、振る舞いに現れる ―

引用文は原文を併記し、引用・参照資料は各章末に掲げました。

第二章　奉仕の理念の源流

第一章では、「奉仕の理念（the ideal of service）」という言葉が、ロータリーの公式文書に明記されていることを確認しました。

一方で、公式文書には、奉仕の理念とは、こういうものである。という、一言で完結する定義は見当たりません。

その意味を考えるためには、言葉だけを見つめるのではなく、ロータリーがどのような思想を受け継ぎ、どのような歴史を歩んできたのかをたどる必要があります。

本田博己パストガバナーは、ロータリーの歴史と思想を振り返りながら、職業奉仕のさらに奥にある「奉仕の理念」を明らかにしようとしてきました。

奉仕の理念は、本田 PG が新しく創ったものではありません。

ロータリーが生まれる以前から人類が受け継いできた倫理観、そしてロータリー創成期の人々が職業や社会の中で見いだした考え方。それらが重なり合いながら、ロータリーの奉仕思想が形づくられてきたのだと思います。

黄金律という源流

奉仕の理念の源流を考えるとき、まず黄金律、英語でいう “The Golden Rule” に行き着きます。

一般に、黄金律は次のような言葉で表されます。

“Therefore all things whatsoever ye would that men should do to you, do ye even so to them.”

「自分が人からしてもらいたいと思うことを、人に対しても行いなさい。」[1]

これと同じ趣旨の教えは、キリスト教だけにあるものではありません。

「自分が望まないことを、他人にしてはならない」という形を含め、さまざまな宗教や思想の中に、時代や地域を越えて見いだすことができます。

それは、人間が共に生きるために受け継いできた、普遍的な知恵の一つなのでしょう。

黄金律が私たちに求めているのは、単に人に親切にすることだけではないと思います。

自分の立場からだけではなく、相手の立場から物事を見ること。自分にも感情や願いがあるように、相手にも感情や願いがあると考えること。自分が一人の人間として尊重されたいと思うなら、相手のことも一人の人間として尊重すること。

黄金律の根底にあるのは、相手を自分と同じように大切な存在として見る姿勢ではないでしょうか。

しかし、ここで注意したいことがあります。

「自分がしてもらいたいことを相手にもする」というだけでは、自分の価値観を相手に押しつけることにもなりかねません。

自分にとってよいことが、そのまま相手にとってもよいとは限らないからです。

だからこそ、黄金律を現代に生かすためには、「自分ならどうしてほしいか」と考えるだけでなく、相手は何を望んでいるのか。

相手にとって本当に必要なものは何か。

と問い、相手の声を聴くことが必要になります。

相手の立場を想像することから、相手の声を実際に聴くことへ。
そこまで進んで初めて、黄金律は一方的な善意ではなく、相手を尊重する振る舞いになるのだと思います。

ロータリー創成期の変化

1905 年に始まったロータリーは、当初から現在のような奉仕団体として完成していたわけではありません。
ポール・ハリスが仲間とつくった初期のロータリークラブは、異なる職業の人々が集まり、親睦を深め、互いの事業を支え合うことに大きな意味を見いだしていました。[3]
信頼できる仲間を増やし、会員同士で仕事を紹介し合う。都市化が進み、人間関係が希薄になりつつあった当時のシカゴにおいて、それ自体が大きな魅力だったのだと思います。

会員同士で仕事を紹介し、困ったときには支え合う。その相互扶助は、初期のロータリーにとって欠かせないものでした。異なる職業の人々が互いを知り、助け合う経験を通して、会員の間に信頼が育まれていったのだと思います。

そして、仲間を大切にするその関係は、やがてクラブの外にも目を向けさせました。自分たちの職業や能力、ネットワークを、地域社会のためにも生かすことはできないか。ロータリーは、会員同士の相互扶助を土台としながら、奉仕の対象と可能性を広げていったのではないでしょうか。

「相互扶助から社会奉仕へ」と単線的に置き換えず、相互扶助が信頼を育て、奉仕の広がりを支えたという関係に直します。その思想的な形成に大きな影響を与えた一人が、アーサー・フレデリック・シェルドンです。

シェルドンの奉仕思想

アーサー・フレデリック・シェルドンは、経営や販売について教える教育者であり、シカゴ・ロータリークラブの初期会員でもありました。
シェルドンは、事業の成功を、自分の利益だけを追い求めた結果として捉えてはいませんでした。
顧客が本当に必要としているものを理解し、それに応える価値を提供する。従業員や取引先を尊重し、正しい関係を築く。そのような事業こそが信頼を得て、結果として持続的に発展すると考えました。
シェルドンの考えを象徴する言葉があります。
“He profits most who serves his fellows best.”
「仲間に最もよく奉仕する者が、最も多く報いられる。」
この言葉をもとに、1911 年に米国オレゴン州ポートランドで開かれたロータリー大会で、“He Profits Most Who Serves Best” が標語として承認されました。
その後、時代に合わせて代名詞が見直され、現在の公式な表現は、
“One Profits Most Who Serves Best”
「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。」
となっています。[2]

ここで使われている “profits” を、単に金銭的な利益だけと捉えると、シェルドンの考えを狭く理解してしまいます。
事業において、よい奉仕が顧客の信頼や継続的な発展につながることは、確かに含まれています。しかし、「報い」とは、それだけではないと思います。

信頼を得ること。
人との関係が育つこと。
仕事への誇りを持つこと。
社会に必要とされること。
そして、人のために行動することを通じて、自分自身も成長すること。
そのような広い意味での「報い」と捉えることができます。

奉仕と利益は、対立するものではない。
相手に本当に役立つ価値を届けることが信頼を生み、その信頼が職業や社会を持続させ、やがて自分自身にも返ってくる。
シェルドンの考えは、単なる成功の方法ではなく、人と人とが信頼によって結ばれる社会の在り方を示していたのではないでしょうか。

もう一つの標語

ロータリーには、もう一つの公式標語があります。
“Service Above Self”
「超我の奉仕」
この表現は、1911 年のポートランド大会で語られた、“Service, Not Self” という言葉に由来するとされています。
その後、表現が整えられ、1950 年のロータリー国際大会で、“Service Above Self” と “He Profits Most Who Serves Best” がロータリーの公式標語として採択されました。
さらに 1989 年、RI 規定審議会は、“Service Above Self” をロータリーの第一標語と定めました。
日本語では「超我の奉仕」と訳されています。

「超我」という言葉から、自分を犠牲にし、自分のことをすべて後回しにするという意味に受け取られることがあります。
しかし、“above” は、自分の存在や利益を否定する言葉ではありません。
自分だけを中心に考えるのではなく、ときには自分の都合や利益を越えて、相手や社会のために行動する。自分を消し去るのではなく、自分を越えていく。
私は、そのように受け止めています。
奉仕のために、自分の人生を損なうことが求められているわけではありません。
自分の時間、職業、経験、能力を大切にしながら、それらを自分だけのものにせず、人や社会のためにも生かしていく。
それが、“Service Above Self” の示す方向ではないでしょうか。

二つの標語は対立するのか

“Service Above Self”
「超我の奉仕」
“One Profits Most Who Serves Best”
「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」

一つは、自分を越えて人のために行動することを求めています。
もう一つは、よい奉仕が、やがて自分にも返ってくることを示しています。
表面的に見ると、一方は自己を抑えることを説き、もう一方は自分が得るものを説いているように見えます。
しかし、本当にこの二つは対立するのでしょうか。

私は、そうではないと思います。
人のために行動する。
その行動が、相手にとっての価値を生む。
価値が信頼を生み、その信頼が自分にも返ってくる。
そして、その経験によって、自分自身も学び、変わる。
変わった自分が、また次の奉仕へ向かう。

このように捉えると、二つの標語は、奉仕をめぐる一つの循環を異なる方向から照らしているように思います。

“Service Above Self” は、自分の利益だけを判断の中心に置かず、相手や社会に向かって行動する姿勢を示しています。“One Profits Most Who Serves Best” は、相手に役立つことが信頼を育み、その信頼が自分の仕事や人生にも豊かさをもたらすことを示しています。

ロータリーの出発点にあった相互扶助も、この関係を考える手がかりになります。互いを助けることで信頼が生まれ、その信頼に支えられて、さらに人のために行動できるようになる。自分が何かを得ること自体が、奉仕に反するわけではありません。

ただし、相手を自分の利益のための手段にしてしまえば、奉仕の意味は変わります。相手に本当に必要とされる価値を届けようとする。その行動を通して相手との関係が育ち、自分自身も学び、次の奉仕へ向かう。私は、二つの標語をそのようにつながるものとして受け止めています。

「利己」と「利他」を分け過ぎない

私たちは、奉仕を「利己か利他か」という二つに分けて考えることがあります。
自分のためであれば利己であり、人のためであれば利他である。
しかし、現実の人間の行動は、それほど単純に分けられるものではありません。
誰かの役に立てたことを、うれしいと感じる。
人から感謝され、自分も励まされる。
奉仕活動を通じて仲間と出会い、自分の人生が豊かになる。
社会のために働くことが、自分の職業への誇りにつながる。

そこには、相手のためと自分のためが、ともにあります。
大切なのは、自分が何かを得ることを否定することではありません。
自分の利益だけを目的として、相手を手段にしていないか。
相手に本当に必要とされる価値を届けているか。
相手の喜びや成長と、自分の喜びや成長がつながっているか。
そのことを問い続けることではないでしょうか。

奉仕する側だけが与え、奉仕される側だけが受け取るのではありません。
人と人とが関わり合い、その中で互いに何かを受け取り、互いに変わっていく。
奉仕の理念には、そのような人間関係への理解が含まれているように思います。

決議23－34は、何を示したのか

こうした奉仕の考え方が、ロータリーの活動にどう表れるのかを考えるうえで、決議 23 － 34 も大切な資料です。1923 年の国際大会で採択され、その後改正されたこの声明は、現在「社会奉仕に関する 1923 年の声明」として紹介されています。

この声明は、奉仕の理念をそのとき初めて生み出した文書ではありません。すでにロータリーの中で育まれてきた奉仕の考え方を踏まえ、ロータリアン個人の生活と、クラブによる社会奉仕活動との関係を示したものとして読みたいと思います。

会員が日々の生活で奉仕の理念を実践することと、クラブが地域社会に向けて行動すること。その両方を視野に入れることで、奉仕の理念を特定の事業だけに閉じ込めずに考えることができます。

本田PGの考察が示すもの

本田 PG は、黄金律、シェルドンの奉仕思想、そしてロータリーの二つの標語をたどりながら、「奉仕の理念」を考えてきました。

そこから見えてくるのは、職業奉仕の手法だけではありません。

相手の立場を考えること。

相手に必要とされる価値を届けること。

人との間に信頼を築くこと。

自分だけの利益を越えて行動すること。

そして、その行動を通じて自分自身も成長すること。

これらは、職業生活だけに求められるものではありません。

個人生活にも、クラブでの人間関係にも、地域社会への奉仕にも、国際理解や平和への取り組みにも通じています。

本田 PG の考察は、「奉仕の理念」に新しい定義を与えるものというより、ロータリーの歴史の中に流れてきた考え方を掘り起こし、私たちに改めて問い直すものだと、私は受け止めています。[4]

源流から、今を考える

黄金律は、相手を自分と同じように大切な存在として見ることを求めます。

シェルドンは、相手に最もよく奉仕することが、信頼と持続的な発展につながると考えました。

“Service Above Self” は、自分だけを中心に考えるのではなく、自分を越えて人や社会のために行動することを示します。

“One Profits Most Who Serves Best” は、その行動によって相手だけでなく、自分自身も報いられ、成長していくことを示しています。

この流れから考えると、奉仕の理念は、一方的に何かを与えることだけではないように思います。

相手を理解しようとする。

自分にできることを行動に移す。

その行動によって信頼が生まれる。

相手とともに、自分自身も学び、変わる。

そして、得たものを次の奉仕へ生かしていく。

奉仕の理念は、その循環の中に現れるのではないでしょうか。

しかし、歴史や標語を知るだけで、奉仕の理念を生きていることにはなりません。

大切なのは、受け継いできた理念を、今を生きる私たちが、どのような行動として表すかです。理念は、言葉として掲げられているだけでは、現実を変える力にはなりません。

では、奉仕の理念は、私たちの日々のどのような場面に現れるのでしょうか。

次章では、「理念は、振る舞いに現れる」という視点から、奉仕の理念を私たち自身の生活と行動に引き寄せて考えてみたいと思います。

引用・参照資料

［1］ The Holy Bible, Matthew 7:12, King James Version. 本文の日本語は趣旨訳。
［2］ Rotary International, “History: Rotary’s two official mottoes,” 18 December 2018. https://www.rotary.org/en/articles/2018/12/history-rotary-mottoes
［3］ Paul P. Harris, My Road to Rotary, Rotary International, 1948.
［4］ 本田博己『奉仕の理念を実践しよう！』講演資料。

ロータリーの友ウェブサイト「社会奉仕に関する1923年の声明」（決議23－34。1923年国際大会で採択、以後改正）。

ガバナーからの問いかけ 2

ガバナーとしての今の自分を考える①
ガバナーという時間を考える ― 理その前、その時、その先へ ―

ガバナーを務める中で、目の前の役割を果たすことに加え、この立場にある時間をどう使うのかを考えるようになりました。就任前に受け取った問いは、経験を重ねる中で、少しずつ意味を深めています。二年目の今、これからの働きかけにつなげるために、ガバナーになる前、担っている今、そしてその先を見つめてみたいと思います。

どんなガバナーになりたいの？

ガバナーノミニーデジグネート候補として、ガバナー指名委員会の面談を受けた際、一人のパストガバナーから尋ねられました。

「ガバナーの役割は理解していますか。」

「ガバナーになったら、何をしたいのですか。」

そして、「ロータリー章典を読んできてください」と言われました。

ガバナーの役割と責任を理解し、制度や仕組みを学ぶことは必要です。私も、準備を進める中で、その大切さを感じてきました。ただ、「何をしたいのか」という問いの受け止め方は、実際に役割を担う中で変わってきました。

その後、ガバナーノミニーとなった私に、今の地区ラーニングファシリテーターが問いかけました。

「どんなガバナーになりたいの？」

私には、この二つの問いが違って聞こえました。

何を実施するのかに加え、その役割を担う自分がどうあるべきなのか。ガバナーとしての振る舞いを考える、その問いが今も残っています。

二年目の今だから、立ち止まる

一年目は、43 クラブへの公式訪問や行事、研修など、初めての経験の連続でした。目の前のことに向き合い、一つひとつを務めることで精一杯だったように思います。

二年目になると、年度の流れや次の予定がわかり、その先まで少し見渡せるようになりました。その中で、自分が伝えてきたことが、どのように受け止められているのかを考えるようになりました。

ある公式訪問で、次の問いを受けました。

「竹中ガバナーは、クラブと会員が自ら考え、自ら行動することが大切だと言ってくれています。でも、ガバナーが変わったら、地区もまた元に戻ってしまうのでしょうか。」

ガバナーが変われば、地区の雰囲気や重点が変わることは自然です。

ただ、伝えてきたことが、ガバナー個人の方針として受け止められるだけでは、その先につながりません。クラブと会員が自分たちにとっての意味を考え、自身で選び取ったものになってこそ、育っていくのだと思います。

この問いは、ガバナー就任までは元より、現在でも、今の働きかけを見つめ直す、自身を顧みるきっかけになる問いかけになっています。

残された時間に取り組むこと

今の私には、「まだ任期がある」というより、
「あとわずかな時間しか、ガバナーでいられない。」
という感覚があります。

ガバナーという立場だからこそできる働きかけがあり、その時間には限りがあります。だからこそ、残された時間に何を大切にするのかを考えたいのです。

公式訪問で交わした言葉や、研修で考えたことは、その後どうなっているのか。そこから、どんな気づきや動きが生まれているのか。
一度の訪問や行事では見えなかった変化も、時間を置いて再び話を聞くことで、見えてくるかもしれません。年度の流れを一度経験した二年目だからこそ、その「その後」に目を向けたいと思います。

新しいことをいくつ始められるかだけでなく、これまでの働きかけを確かめ、そこから次に必要なことを考える。芽生えた動きが育つために、関わり続けたいと思っています。

ガバナーを務めた時間を振り返るのは、まだ先です。今は、その時間の中にいる自分に何ができるかを考えたいのです。

その先を考えることも、今の役割

2025–26 年度のロータリー研究会で、当時のフランチェスコ・アレッツォ RI 会長の講評を直接聞く機会がありました。

アレッツォ会長は、ご自身のロータリーでの歩みについて話されました。

人前で話すことが得意ではなかった若者が、クラブの中で学び、成長し、やがて 50 人ほどのリーダーとなる。さらに世界の 500 人のリーダーの一人となり、17 人のリーダーの一人となり、そして 100 万人を超えるロータリアンを代表する RI 会長になった。

そこで会長は、問いかけました。
「では、この後、私はどうするのでしょう。」

そして、クラブに戻り、そこで自分が培ってきたリーダーシップを地域のために生かしていく、と話されました。

私は、この言葉が強く心に残っています。
※この講評の記述は、私が直接聞いた内容を記したものであり、公式の逐語録として確認したものではありません。

クラブで育ててもらい、役職を通じて経験を重ね、そこで得たものをクラブと地域へ返していく。私は、この話に、巡っていくリーダーシップの姿を感じました。

私自身も、ガバナーを終えたら、クラブの一会員として経験を生かしたいと思います。

経験は伝える。
求められれば助言する。
必要なときには支える。
しかし、前に出過ぎない。

「自分のときはこうだった」を次の時代の正解にせず、次の人が考え、判断する余地を大切にしたいと思っています。
役職を終えた後の関わり方を考えておくことも、今の役割をどう担うかにつながっているように思います。

そして、会員としてロータリーを楽しみ、「Together. Have fun.」を、自分自身のロータリーライフで実践していきたいと考えています。

次の担い手へ、問いを手渡す

ガバナーエレクト、ガバナーノミニー、ガバナーノミニーデジグネートの皆さんも、それぞれの段階で、学び、準備を進めています。

役割や責任を学び、地区の状況を知り、人との関係を築いていく。その時間の中で、ぜひ考えていただきたい問いがあります。

「何のためにガバナーになるのか。」
「どんなガバナーになりたいのか。」

答えは、それぞれに違ってよいと思います。準備の中で考えた答えが、実際に役割を担う中で変わっていくこともあるでしょう。

私自身も、今なお問い続けています。ご自身の言葉で向き合い、その時々の経験に照らして考える。そのための問いとして、受け取っていただければと思います。

何を残したいのか

「何かを残すことと、何かに自分を残すことは、同じではない。」
ガバナーとして何を残したいのかと考えるのではなく、私は、この違いを大切にしたいと思っています。

自分が関わったことのすべてに、任期中に結果が見えるとは限りません。時間をかけて意味が受け止められ、後になって動き始めることもあるでしょう。

誰かの中に生まれた問いや気づきが、その先の行動につながっていく。自分の在任中に形になることだけを求めず、その先に育つものを信じることも必要なのだと思います。
その動きが育っていくなら、いつか、それが誰の言葉から始まったのかわからなくなってもよいのだと思います。

「どんなガバナーになりたいのか。」
準備の中で受け取った問いは、今、
「残された時間を、どう生きるのか。」
という問いになっています。そして、その先には、
「これから、どんなロータリアンでありたいのか。」
という問いが続いています。

ガバナーの任期には終わりがありますが、私のロータリーライフは、その先も続いていきます。

ガバナーからの問いかけ 3

ガバナーとしての今の自分を考える②

ガバナーとして、誰とともに進むのか
― 一人ひとりのロータリアンに向き合う ―

クラブを訪ね、会員の皆さんと語り合う中で、ガバナーとして何を伝えるかとともに、どのように向き合うかを考えてきました。私の言葉や振る舞いは、皆さんにどう届いているのか。誰とともに、どのような立ち位置で進みたいのかを、改めて言葉にしてみたいと思います。

私が向き合いたい人

ガバナーとして、私は何のためにこの役割を担っているのか。
その中心にいるのは、一人ひとりのロータリアンです。

ロータリーという組織、団体を守ること自体が、私の目的ではありません。ロータリーの理念と目的に向かう皆さんと、ともに進みたい。その皆さんが形作る、それぞれのクラブを大切にしたい。私は、そのような思いでガバナーを務めています。

組織が続いていくことには意味があります。
長い歴史の中で育まれてきた信頼や、人と人とのつながりが、私たちの活動を支えています。ただ、その組織を何のために続けるのかという問いは、持ち続けなければならないと思います。

理念や目的は、掲げるだけでは生きたものになりません。それを受け止め、仕事や暮らし、人との関わりの中で実践する人がいて、初めて力を持ちます。

私が向き合いたいのは、その一人ひとりです。

私自身も、その一人

そして、私自身も、その一人です。

ガバナーになったからといって、ロータリーのすべてを理解したわけではありません。会員の皆さんとの出会いや対話、クラブの活動に触れる中で、私自身も学び、考え、ときには迷いながら、理念と目的に向かっています。

自分では大切だと思っていたことも、違う経験や考えに触れることで、捉え直すことがあります。何気なく聞いた言葉から、見落としていたことに気づかされることもあります。

ガバナーとして伝える役割を担っていますが、皆さんから受け取るものも少なくありません。
だからこそ、皆さんとともに進みたいのです。

それぞれのところから

ロータリーへの関わり方や、関われる時間、大切にしていることは、一人ひとり違います。

長く活動してきた人にも、入会したばかりの人にも、それぞれに見えているロータリーがあります。
活動に手応えを感じている人もいれば、まだロータリーの意味をつかめずにいる人、自分の関

わり方を考えている人もいるでしょう。

「理念と目的に向かう皆さん」と申し上げるとき、すでにそれを十分に理解し、実践している人だけを思い描いているわけではありません。
疑問を持つことも、立ち止まって考えることも、自分にとってのロータリーを見いだしていく過程にあると思います。

何を感じ、何に戸惑い、どのような関わりを望んでいるのか。そうした声には、活動の報告や会員数だけでは見えてこない、一人ひとりの経験があります。
その受け止め方を知ることが、ともに進むための出発点になると思っています。

クラブを理解するところから

その一人ひとりが、日々ロータリーに関わっている場がクラブです。

第2840地区の43クラブには、それぞれ異なる歴史、地域、会員構成、文化があります。そこには、集う人の思い、積み重ねてきた経験、地域との関係があります。

公式訪問でも、活動や実績とともに、会員の皆さんが何を大切にしているのかを知りたいと思っています。
長く続けてきた活動には、外から見ただけではわからない意味があるかもしれません。新しい取り組みには、そのクラブがこれから大切にしたいことが表れているかもしれません。その背景を聞くことが、クラブを理解する手がかりになります。

だからこそ、同じ形にそろえるのではなく、その違いを理解し、それぞれの力が発揮されるよう支えたいと思います。

地区運営も、ガバナーがやりたいことを実現するところから始めるものではないと考えています。クラブと会員の側から地区を見て、何を必要としているのかを考えたいのです。

会員が考え、行動する。クラブがその力を生かす。分区でつながる。地区が支える。
この関係を大切にしながら、ガバナーとして、クラブと会員を鼓舞していきたいと考えています。

私にとって「鼓舞する」とは

では、私にとって「鼓舞する」とは、どういうことでしょうか。

日々の実践の中には、本人にとっては当たり前でも、誰かを支え、信頼を育み、周囲によい変化をもたらしていることがあります。
仕事で誠実に向き合っていること。
仲間の小さな変化に気づいて声をかけること。
地域の人との約束を守り、関係を積み重ねていること。
そうした振る舞いにも、ロータリーの理念につながる価値があると思います。

本人は、それを特別なこととは思っていないかもしれません。クラブでも、いつもの活動として受け止めているかもしれません。
その実践が誰に何をもたらし、どのような信頼やつながりを育てているのか。出会いや対話の

中で、そこにある力を言葉にして伝えたいと思っています。

自分たちの活動を、誰かが関心を持って受け止めてくれる。その意味をともに確かめることで、これまでの歩みに手応えを感じたり、次の可能性に気づいたりすることもあるのではないでしょうか。

ロータリーの価値を知る。
その価値に納得する。
そして、自分自身が大切にする価値として育てていく。

その過程は、一人ひとりの経験の中にあります。説明を聞いてわかることもあれば、参加して初めて感じること、人との関わりを通じて後から気づくこともあるでしょう。

ガバナーが代わりに答えを出すことはできません。
しかし、その人やクラブが持っている力を伝え、可能性をともに考え、一歩を踏み出そうとするときに力を添えることはできると思います。

私にとって、皆さんを鼓舞するとは、そういうことです。

皆さんとの関わりの中で

クラブで大切にしていることや、会員が感じていることを、地区の支え方に反映していく。
そのために、私の考えへの共感だけでなく、違和感や戸惑いも聞かせていただきたいと思っています。

地区の働きかけが、皆さんにとって力になっているのか。
かえって負担になっていることはないか。
そうしたことも、率直に語り合える関係を大切にしたいと思います。

私自身も、一人のロータリアンとして、皆さんとの関わりの中で考え続けています。

ガバナーという役割を、その声を受け止め、皆さんの力に力を添えるために果たしていきたいと思います。

地区委員会委員長紹介

	・役職 ・氏名（クラブ名） ・勤務先 ・おススメのお店（所在地）
	地区新クラブ結成小委員会 委員長
	広瀬　雅美（高崎 RC）
	ヒロパックス㈱
	柳川 美熊野 （高崎市柳川町）
	参加意欲向上委員会委員長
	星野　儷日（桐生南 RC）
	星野管工㈱
	しみずや（桐生市新宿）
	公共イメージ･ICT推進委員会 委員長
	田嶋　宏樹（前橋南 RC）
	アイティーエス㈱
	フェリーチェ （前橋市荒牧町）
	国際大会推進委員会委員長
	小林　聡（桐生西 RC）
	㈲プラスツーリズム
	萬来軒（桐生市宮本町）
	奉仕プロジェクト委員会 委員長
	島田　渉（前橋南 RC）
	㈱シマダ葬祭
	NEW DELHI（前橋市表町）

	・役職 ・氏名（クラブ名） ・勤務先 ・おススメのお店（所在地）
	青少年交換委員会委員長
	新井　聡（前橋西 RC）
	㈱コーア
	焼肉ハウス さんちく （前橋市六供町）
	インターアクト委員会委員長
	田原　明岬（伊勢崎南 RC）
	三基商事㈱
	和食　はん田 （伊勢崎市昭和町）
	RYLA･学友委員会委員長
	藤澤　真史（桐生赤城 RC）
	社会福祉法人　三和会
	日本料理　うおせん （桐生市広沢町）
	米山記念奨学委員会委員長
	矢内　良春（伊勢崎南 RC）
	豊鉄水工業㈱
	伊勢とよ（伊勢崎市堀口町）

令和8年 熊本地震支援金報告

令和8（2026）年7月２８日に発生した「令和８年熊本地震」について、国際ロータリー第2720地区（熊本・大分）よりガバナー会を通じて各地区へ支援依頼があり、当地区でも各クラブに支援金のお願いをさせていただきました。

総額 2,180,921円の支援金となり第2720地区へ送金する事が出来ました。

改めて各クラブ会員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第 2 回 参加意欲向上委員会

● 日　時：9月26日(土)11:00〜12:30
● 会　場：ガバナー事務所
● 出席者：ガバナー：竹中　隆(高崎北RC)、委員長：星野儷日、委員：島田峰子(伊勢崎東RC)
　　委員：髙橋寿美江(高崎シンフォニーRC)、委員：中澤翔(沼田RAC)、
　　地区副幹事：相川北斗(安中RC)
● 報告者：地区副幹事　相川北斗(安中RC)



9 月 26 日（土）ガバナー事務所において「第 2 回 参加意欲向上委員会」が開催されました。内容は下記の通りです。

■ 竹中ガバナー挨拶

■ 議事録

① フリーメイクアップの導入の課題と目的

・現行のメイクアップ運用に不明点があるとのクラブからの声。
・地区内で受入条件の共通ルール・一覧表を整備し、クラブ間の往来を円滑化する方針。
・メイクの目的は出席率向上ではなく、交流・情報獲得・刺激・他クラブの取り組み理解を重視。

※結論

：地区共通の「フリーメイク」ルール（A4 1 枚）と 受入リストを作成・運用する。

② 食事手配・費用・キャンセルの課題整理

最大の課題は食事手配、費用負担、キャンセル時の取り扱い、事務局の手間増。
「食事あり」「食事なし（情報交換のみ）」の 2 パターンでルール化を検討。
食事ありの基本案：1 週間前までに事務局へ申込、費用は標準 2,000 円（不足分は事務局調整、余剰はニコニコ等）。食事なしでも席都合があるため申込推奨、基本は 1 週間前。フラっと訪問ニーズへの対応として、食事なしで 3 日前受付の 柔軟性も議論。

※結論

：食事有無別の 申込・費用・キャンセル基準を「A4 1 枚」ルールにし、標準 2,000 円を 目安に運用開始。

③ 受け入れ告知・情報共有の方法

・各クラブが「来訪を歓迎する日・企画」をリストアップして告知。
・ガバナー月信に QR コードを掲載し、常時更新可能な Web ページで明記一覧を公開。
・事務局にメール送信用 QR、電話番号、FAX も 併記し、複数の申込手段を用意。
・Google フォームを基本としつつ、利用困難者が一定数いるため、QR 付きチラシ配布や LINE 等も併用。
・ICT 支援や使い方講習の可能性に言及。

※結論

ガバナー月信＋ Web 常設ページ知・申込体制を構築。

④ メイクカード・受付運用のばらつきへの対応
・クラブによってメイクカードの形式・提出先が異なる現状。
・切り取りや提出方法の統一ガイドの必要性を指摘（「ちぎらず渡す」等）。
・事務局不在のクラブや当日精算の可否など、現場差を踏まえた柔軟運用を想定。
※結論
メイクカード取り扱いの共通ガイドを暫定整備し、運用しながら微調整。

⑤ 表彰・期間設定（地区大会関連）
・表彰対象案：多クラブ訪問の個人、メイク受入多数のクラブ。
・運用開始時期と集計期間を協議（例：1 月開始〜 4 月 25 日地区大会迄、または 2 〜 3 月末迄の期間）
※結論
開始は「1 月」案で検討、期間は 3 月末までを踏まえ柔軟に設定。

⑥ ガバナー月信への掲載とPR計画
・10 〜 11 月に 月信へ QR 掲載、準備期間を 設け 、テスト PR。運用も可。
・委員会が全クラブへ説明に行くのではなく、理解の得られやすいクラブから順次 PR。
・会長幹事会で配布・周知する資料の作成。

⑦ ツール作成・デザイン
・チラシや案内の作成には Canva などを活用可能。
・月信に載せる情報はコンパクトに、クラブ配布用は 1 枚フォームを想定。
・　参考チラシは LINE で 共有予定。

⑧ ロータリーの義務・出席率に関する補足議論
・国際ロータリーの考え方として、礼会出席は推奨（shall）であり義務（must）ではないとの認識を共有。
・関与（プロジェクト参加等）を重視する方向性を確認。

※結論
メイク推奨文に「何をクラブに持ち帰るか」を強調し、関与重視の姿勢を明示。
スケジュール・次回予定・運営

次回開催予定：2026-12-17（第 3 週木曜日）。





米山記念奨学生カウンセラー研修会

● 日　時：9月26日(土)11:00～12:30
● 会　場：前橋問屋センター会館　秋冬の間
● 出席者：竹中　隆ガバナー、竹内正幸米山記念奨学委員会アドバイザー、
田中久夫米山記念奨学会副理事長、湯澤　晃ガバナーエレクト、
櫻井正晴代表地区幹事、廣木晴久地区幹事、矢内良春米山記念奨学委員長ほか
米山記念奨学委員12名、
川島博米山記念奨学委員会担当副幹事、佐藤宗孝米山記念奨学委員会担当副幹事
各クラブ米山記念奨学生カウンセラー２１名
● 報告者：米山記念奨学委員　飯塚一成(館林ＲＣ)

前橋問屋センター会館　秋冬の間にて、今年度の米山記念奨学生カウンセラー研修会を開催いたしました。

竹中　隆ガバナーより挨拶をいただき、矢内良春委員長より「カウンセラーの重要性について」米山記念奨学事業の成立ちや目的からカウンセラーの役割、クラブ内での接し方、レポートとカウンセラーの所見の提出等の説明を受けました。

また近年の SNS 等においてプライバシーの取り扱いには注意が必要になります。

米山記念奨学生カウンセラーのアンケート結果を森岡敦史副委員長より説明を受け、グループディスカッションを行いました。奨学生とは良好ではあるが会話は月１回の送迎や例会前の短時間など時間が足りない、一緒に挨拶の手伝いや補佐してくれる人が欲しい、男性と女性での距離感など対応の仕方も苦慮しているようです。



カウンセラーのみでなくクラブ１人１人が一緒に奨学生のお手伝をしていただきたいと改めて感じました。

最後に竹内正幸アドバイザーより講評をいただき閉会となりました。





米山記念奨学セミナー

● 日　時：9月26日(土)13:30～15:40
● 会　場：前橋問屋センター会館　「華龍の間」
● 出席者：竹中　隆ガバナー(高崎北RC)、竹内正幸米山記念奨学委員会アドバイザー(太田RC)、
田中久夫米山記念奨学会副理事長(高崎RC)、湯澤　晃ガバナーエレクト(前橋北RC)、
櫻井正晴代表地区幹事(安中RC)、廣木晴久地区幹事(前橋北RC)、
矢内良春米山記念奨学委員長(伊勢崎南RC)、西田俊太郎・森岡敦史両副委員長ほか
米山記念奨学委員会委員、米山学友会関係者、
各クラブ出席者/104名(うちZoom参加11名)
各クラブの会長・会長エレクト・幹事・米山奨学委員長
● 報告者：米山記念奨学委員　黒澤秋彦(富岡かぶら)

---

13 時 30 分に開会し、竹中　隆ガバナー、竹内正幸アドバイザーのご挨拶に続き、発表や講演が行われました。

はじめに、安中ロータリークラブの米山記念奨学生・楊姬婷さんによる「米山記念奨学生となって」と題した発表がありました。続いて、前橋ロータリークラブの増田晋一さんによるカウンセラー体験発表、元奨学生のダシルバ イゴル ジュニオさんによる発表が行われ、奨学生とロータリアンとのつながりについて考える機会となりました。

さらに、米山学友会副会長の韓婷さんから米山学友会について紹介があり、米山記念奨学の活動紹介 DVD を視聴しました。休憩後は、矢内良春米山記念奨学委員長より「ロータリー米山記念奨学事業について」の説明があり、事業の目的や活動について理解を深めました。

続いて、よねやま親善大使のプーガ パブロさん（三鷹ロータリークラブ）による「『日本ロータリーの宝』米山記念奨学金―持続可能なインパクトを生み出そう―」と題した講演が行われました。その後、質疑応答を経て、湯澤　晃ガバナーエレクトによるセミナーの振り返りがあり、15 時 40 分に閉会しました。

今回のセミナーは、奨学生、学友、カウンセラー、それぞれの立場から米山記念奨学事業に触れ、その意義を改めて考える機会となりました。今後も、奨学生との交流を大切にしながら、国際理解と親善につながる米山記念奨学事業への理解を広げていきたいと思います。





青少年交換派遣学生帰朝報告会

● 日　時：2026年9月27日(日)10:00～12:00
● 会　場：ホテルメトロポリタン高崎
● 出席者：竹中　隆ガバナー、湯澤　晃ガバナーエレクト、板橋一博ガバナーノミニー、
櫻井正晴代表地区幹事、廣木晴久地区幹事、新井　聡青少年交換委員会委員長、
青少年交換委員7名、ROTEX2名、長期派遣学生4名、短期派遣学生3名、
派遣候補生6名、新島学園校長、四つ葉学園教頭、各スポンサークラブ、
各ホストクラブ、ホストファミリィー、地区副幹事2名
● 報告者：地区副幹事　飯島岳吏(安中RC)

2026 年 9 月 27 日ホテルメトロポリタン高崎にて国際ロータリー第 2840 地区青少年交換派遣学生帰朝報告会が行われた。

まず初めに開会宣言があり、その後長期派遣学生 4 名・短期派遣学生 3 名の順で入場し新井　聡委員長より来賓・学校関係者・ロータリアン・ローテックスへの謝意があり、長期・短期派遣の教育的価値を挨拶で述べた。

次に竹中　隆ガバナーより挨拶があり、青少年交換は「若者への投資」であって学生の成長だけではなく、会員自身が得る学びも含めたリターンも強調し、経験からの内面的変化と将来活用に期待するとあった。

その後長期派遣学生、短期派遣学生の順でプロジェクターを使った帰朝報告があり

・多様性の受容が自己肯定感を醸成
・リスクの管理と挑戦を通じネットワークの形成と適応力の獲得
・人前での発表力の向上
・経験による自信・自己表現の向上

などの学びがあったと各々英語も交え報告があった。

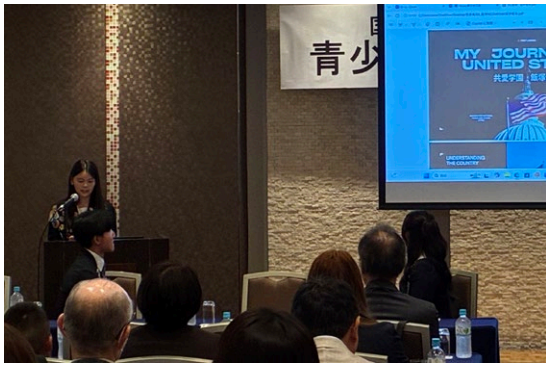
次に派遣学生保護者代表挨拶があり、ディプロマ贈呈・記念写真、講評があり閉会となった。




国際ロータリー第２８４０地区
青少年交換　帰朝報告会


国際ロータリー第２８４０地区
青少年交換　帰朝報告会


青少
City of Walls Walls


青少


国際ロータリー第２８４０地区
青少年交換　帰朝報告会




国際ロータリー第２８４０地区
青少年交換　帰朝報告会

青少年交換受入学生歓迎会

● 日　時：2026年9月27日(日)13:00～14:30
● 会　場：ホテルメトロポリタン高崎
● 出席者：竹中　隆ガバナー、湯澤　晃ガバナーエレクト、板橋一博ガバナーノミニー、
櫻井正晴代表地区幹事、廣木晴久地区幹事、新井　聡青少年交換委員会委員長、
青少年交換委員7名、ROTEX2名、長期派遣学生4名、短期派遣学生3名、
派遣候補生6名、新島学園校長、四つ葉学園教頭、各スポンサークラブ、
各ホストクラブ、ホストファミリィー、地区副幹事2名、
● 報告者：地区副幹事　飯島岳吏(安中RC)

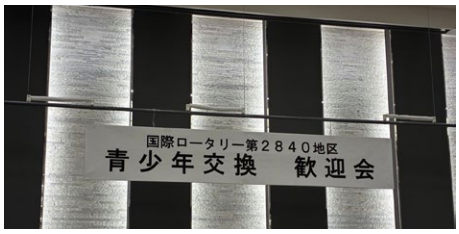
2026 年 9 月 27 日ホテルメトロポリタン高崎にて国際ロータリー第 2840 地区青少年交換受入学生歓迎会が行われた。

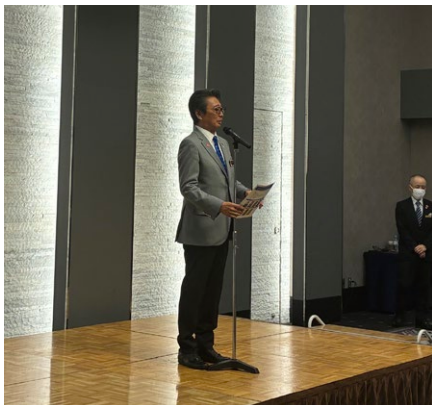
まず初めに開会宣言があり、その後受入学生 3 名が入場し舟木　諒副委員長より挨拶があった。

次に竹中　隆ガバナーより挨拶があり、その後乾杯により懇親が行われた。

しばらく懇親し、受入学生の 3 名よりプロジェクターを使い自己紹介があったがそのほとんどが日本語での自己紹介だった。

そして 2027-2027 年度派遣候補生 6 名の紹介があり、閉会となった。











第 2 回 地区事業検討特別委員会

● 日　時：2026年9月27日(日)15:30〜16:30
● 会　場：たかさき書斎
● 出席者：竹中　隆ガバナー、中野正美パストガバナー、森田高史パストガバナー
　　保坂充勇パストガバナー、森　末廣直前ガバナー
　　湯澤　晃ガバナーエレクト、板橋一博ガバナーノミニー、櫻井正晴代表地区幹事
● 報告者：代表地区幹事　櫻井正晴(安中RC)

竹中　隆ガバナー年度の第 2 回地区事業検討特別委員会がたかさき書斎で開催されました。

地区事業検討特別委員会は結論を出す委員会ではなく地区内のクラブの奉仕事業の色々な方向性を探り、予算など単独では実施困難なクラブが参加しやすくブラッシュアップした新しい活動につながるような方向で話し合われました。

協議事項①として地区内各クラブの奨学金に対しては、地区内クラブ奨学金一覧表をもとに議論され地区内 43 クラブの半数くらいのクラブが奨学金事業を行っていることが確認され、公共イメージの向上のためにも奨学金制度の一層充実する必要があると言う意見がありました。

協議事項②として実施クラブ に対する対応についてアンケート調査をおこない、地区内奨学金実施クラブ協議会の開催に向けて話し合われました。

今後は、地区内クラブの独自事業に焦点を当てた再調査としてアンケートを実施することになりました。



RLI セミナー Part Ⅱ

● 日　時：2026年10月4日　9:30～17:00
● 会　場：前橋問屋センター会館2階
● 出席者：竹中　隆ガバナー
本田博己RLI日本支部委員長・パストガバナー
竹内正幸RLI推進委員会アドバイザー・パストガバナー
森田高史パストガバナー、中野正美パストガバナー、保坂充勇パストガバナー、
湯澤　晃ガバナーエレクト、板橋一博ガバナーノミニー
新井良和RLI推進委員会委員長、原　敬RLI推進委員会副委員長
ファシリテーター26名、受講者55名、ガバナースタッフ10名
● 報告者：地区副幹事　櫻井　誠（安中RC）



10月4日（日）、RLIセミナー Part Ⅱが前橋問屋センター会館で開催されました。

竹中　隆ガバナー、竹内正幸RLI推進委員会アドバイザーの挨拶に続き、新井良和RLI推進委員会委員長よりRLIセミナー Part Ⅱ のガイダンスが行われました。 その後、受講対象者である各クラブの会長エレクトと次年度幹事は、「ロータリーの機会」、「効果的なリーダーシップ戦略」、「会員を勧誘する」、「チーム作りとクラブ・コミュニケーション」、「ロータリー米山記念奨学事業」、「ロータリー財団Ⅱ　目標とする奉仕」という6つのテーマのセッションに参加しました。 各セッションでは、ファシリテーターの進行のもと受講者全員が主体的に参加していただき、自身の経験や考えを共有し、他者の意見から学ぶことで、楽しく有意義な議論が行われました。各50分6セッションを3回受けるRLIセミナーは、ロータリーの知識とリーダーシップスキルを対話形式で学ぶ、実践的な研修プログラムです。今回 Part Ⅱでは「自分の所属するクラブをいかに活性化し、より良く運営していくか」という実践的なチーム・組織マネジメントを焦点に学んでいただきました。Part Ⅲでは、より広い国際的な視点や戦略的計画へと学びを深めて参ります。今年度、次回で最後のRLIセミナーです。引続き宜しくお願い致します。













第 2 回 RYLA・学友委員会

● 日　時：2026年10月15日　15:00〜16:30
● 会　場：ガバナー事務所
● 出席者：竹中　隆ガバナー（高崎北RC）　山田邦子アドバイザー（前橋RC）
委員長　藤沢真史（桐生赤城RC）　副委員長　村上大樹（伊勢崎東RC）
委員　新井　聡（前橋西RC）　委員　青山　豊（桐生西RC）
委員　田原明岬（伊勢崎南RC）　委員　矢内良春（伊勢崎南RC）
委員　横山広樹（前橋RAC）　担当副幹事　川島　博（安中RC）
オブザーバー　瀧波　勇一（桐生赤城RC）
● 報告者：地区副幹事　川島　博（安中RC）

---

10 月 15 日（木）前橋問屋町センター会館内ガバナー事務所において第 2 回 RYLA・学友委員会を開催しました。

第 2 回目の委員会は 12 月の RYLA 研修会の運営内容の確認と、学友委員会としての組織運営について協議いたしました。

学友委員会につきましては、米山記念奨学生、RYLA・青少年交換・インターアクト・ローターアクト・財団奨学生等の修了者を対象に、設立の検討を開始いたしました。今年度は、準備期間として「スモールスタート」を基本方針といたしました。個人情報の取扱いは最も慎重を要する課題であり、未成年者には保護者の同意を要することとし、地区としての管理規定や外部委託の選定基準を整理したうえで、一年をかけて運用開始を目指してまいります。

第 25 回 RYLA 研修会は「仲間とつくるチームの力」をテーマに、12 月 12 日（土）9：30 〜 16：30、KIRINAN BASE 体育館（旧桐生南高校体育館）で開催いたします。

本研修は、14 歳から 30 歳までの熱意ある若者を対象に、スポーツ鬼ごっこを通じてチームワークと協同する力を学ぶことを目的としています。

当日は、ホストクラブである桐生赤城ロータリークラブが運営を担当いたします。参加者の皆さまに楽しく有意義な時間を過ごしていただけるよう、準備・運営に取り組んでおります。

12 月 12 日、KIRINAN BASE 体育館で、皆さまと若者たちが交流し、共に学び、楽しい時間を過ごせることを楽しみにしております。

多くの皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。





第 3 回 ガバナー補佐・委員長合同会議

● 日　時：2026年10月17日（土）
● 会　場：前橋問屋センター会館
● 出席者：竹中　隆ガバナー、森田高史パストガバナー、中野正美パストガバナー、
保坂充勇パストガバナー、森　末廣直前ガバナー、湯澤　晃ガバナーエレクト、
板橋一博ガバナーノミニー
各分区ガバナー補佐、各委員会委員長ほか地区役員、地区副幹事
● 報告者：地区副幹事　佐藤宗孝（安中RC）

---

10 月 17（土）、前橋問屋センター会館にて「第 3 回ガバナー補佐・委員長合同会議」が開催されました。内容は下記の通りです。

1 開会およびガバナー挨拶

司会より開会。各ガバナー補佐・委員長の活動報告は、出席者名簿の順に 1 人 2 ～ 3 分を目安として行う旨が案内された。

地区戦略計画の実行と点検

年度開始から約 4 か月が経過し、残る約 8 か月の協力を要請。2026 ～ 2029 年の地区戦略計画について、策定だけで終わらせず、各委員会の事業との関係、進捗、見直しの必要性を点検するよう求めた。計画は前年度のリーダーシップ ラーニング セミナーで承認されたため、今年度の各委員会計画には直接反映されていない可能性がある。次年度・次々年度の委員長とも調整し、継続性を確保する。

地区のビジョンと戦略計画を再確認し、ロータリーの行動計画の 4 項目（より大きなインパクトをもたらす、参加者の基盤を広げる、積極的なかかわりを促す、適応力を高める）の視点で委員会内の協議を進める。会員純増 100 名という地区計画上の目標への言及があった。RI の目標に関する数値・期間は要確認。

分区の協議と地区大会

会長幹事会で、分区の今後のあり方、共同事業、IM 等を協議し、各クラブの意見を吸い上げるよう要請。地区大会には現 RI 副会長を招くとの報告があった。氏名・役職等は要確認。地区大会は明確なテーマを設定し、青少年プログラムの発表を十分に行うため、日曜日午前に青少年フォーラムを設ける構想を説明した。テーマ・構成は関係委員会と引き続き検討する。

IM その他の主要行事について、未報告の内容はガバナー事務所へ正式に報告するよう要請した。

2 地区運営に関する委員会報告

地区特定資産管理運営委員会

森田委員長より報告。10 月 13 日に委員会を開催し、前年度決算の監査終了を受け、会計担当者を交えて地区会計を確認した。一般会計と特別会計、災害対策資金、特別事業積立等の取扱いについて説明した。繰越金・積立金の具体額は文字起こしの数字が不明確なため、決算資料・

規約による確認が必要。地区財政の蓄積状況を踏まえ、クラブが負担する地区分担金を将来軽減できるか検討するよう提案。分担金の引下げは未決定であり、次年度予算等で検討する事項である。

地区事業検討委員会

地区内 43 クラブの実績ある活動を把握し、地区として広められる事業や連携できる事業を検討する。青少年交換、米山奨学事業、各クラブ独自の奨学制度等を協議・調査している。地域への発信と公共イメージ向上につながる展開も検討する。

ガバナー指名委員会

中野委員長より報告。候補者受付の締切は 11 月 30 日との説明があった。受付後に委員会を開き、面接等により適格性を確認する予定。対象年度と正式日程は当日資料で確認する。

会員組織強化委員会

会員増強に成果を上げた第 2580 地区の取組事例を紹介し、関連資料を委員等へメールで共有する予定。事例を参考に地区内の会員増強を進める。

地区戦略計画策定委員会

各委員会の進捗と変更の必要性を確認し、計画見直しに反映する。希望するクラブには戦略計画策定・活用の支援を行う。国内の大学生を対象とする奨学支援についても問題提起があった。米山奨学事業側への照会回答を待ち、対応がない場合には地区独自の検討も必要ではないかとの個人的見解が示された。新制度の実施決定ではない。

ロータリー財団監査委員会

保坂委員長より、財団関係の動向・内容を確認しながら監査業務を進める旨の報告があった。具体的な監査結果・決議の報告は読み取れない。

3 各分区ガバナー補佐報告 前半

第1分区

菊川ガバナー補佐より、公式訪問は 4 クラブ終了、残り 2 クラブと報告。例会前の役員懇談会と例会後のクラブ協議会の役割の違い、協議の進め方に課題を感じているとの発言があった。IM は 2 月開催予定で、奉仕プロジェクトと地域連携の可能性をテーマに基調講演・パネルディスカッション等を検討。発言上の「2 月 9 日」と曜日に不整合があり、正式日程は要確認。ロータリーデーを兼ね、桜・梅等の樹木に被害を与える害虫への対策を分区共同事業として検討し、公園管理関係者や他団体との連携を進める。

第2分区A

公式訪問は 2 クラブ終了、残り 2 クラブとの報告。会長幹事会は 3 回開催。11 月 4 日に群馬大学との交流会を予定。桐生赤城クラブ担当の RYLA への協力を要請。2 月の IM は、各クラブによる地域のボランティア団体等の紹介と、新会員 4 名によるディスカッションの 2 部構成を検討する。3 月に公園・動物園周辺等の清掃、4 月に春の大学交流会を予定。報告者氏名・清掃場所の正式名称は要確認。

第2分区B

6 クラブ中 3 クラブの公式訪問が終了。役員懇談会・クラブ協議会をフリートーク中心とすることで、クラブの現状や将来像、会員個人の課題まで共有できている。副幹事への質問もあり、地区とクラブの双方向の交流が進んでいると報告。IM は 2 月 15 日を予定し、「児童養護施設卒園生の現状と課題 ロータリーは何ができるか」をテーマとする。施設関係者に加え、施設出身でグローバル補助金による留学経験のある方へ講話を依頼中で、承諾は未確定。グループディスカッションと懇親会を予定。

第3分区

公式訪問を通じて会員減少等のクラブごとの課題を把握し、ガバナーを交えた協議が活発に行われていると報告。残り 4 クラブを訪問予定。2 月の IM は子どもの教育・支援環境を主題にフォーラムまたはシンポジウムを検討する。行政の福祉担当者、NPO 関係者等を招き、地域の課題と対応の可能性を共有する。地区事業の継続的な成果につながる分区の取組は、今後会長幹事会等で協議する。報告者氏名と正式テーマは要確認。

4 各分区ガバナー補佐報告 後半

第4分区A

荻原ガバナー補佐より、5 クラブ中 3 クラブの公式訪問が終了し、11 月 11 日に全訪問を終える予定と報告。会長幹事会は 10 月 14 日に第 2 回を開催し、12 月 23 日に第 3 回を予定する。資料掲載の周年行事のうち、対外的な 55 周年行事は行わず、クラブ内の例会等で対応する旨の報告があった。IM は 3 月 25 日の 5 クラブ合同例会の前に実施する方向で検討。関係施設との連携を構想しており、施設名と内容は要確認。

第4分区B

小暮ガバナー補佐より、4 クラブ体制で会員規模に差があり、公式訪問は残り 2 クラブと報告。幅広い年代が在籍するクラブでは交流が活発で、年代が偏るクラブでは発言が少ない傾向を感じたとの所感が示された。若い世代の入会とメークアップの活用を各クラブに呼びかけた。60 周年行事への言及があった。IM は 11 月 2 日の会長幹事会で協議する趣旨と読み取れるが、会議日・周年対象クラブは要確認。

第5分区

斉藤ガバナー補佐より、7 月に就任挨拶、8 月に公式訪問前の事前訪問を実施したと報告。8 月 27 日から公式訪問を開始し、3 クラブ終了。10 月 20 日に中之条クラブ、10 月 27 日に沼田クラブを訪問し、全クラブの公式訪問を終える予定。IM は 11 月 20 日（金）の夕方から開催予定。従来の日曜開催から平日夕方へ変更する。

2 月中に各クラブへの 4 回目の訪問を行い、渋川クラブ 70 周年事業の案内等も行う予定。5 ～ 6 月にはお礼の訪問を計画し、年間 5 回程度の訪問を見込む。各クラブの地域に根差した活動から多くの学びがあったとの所感が示された。会長幹事会は 1 回開催済みで、第 2 回を 12 月に予定。以後もおおむね 3 か月に 1 度、ガバナー補佐を交えた情報交換・懇親の場を設ける方針。

第6分区

小貫ガバナー補佐より、クラブのビジョン・現状・課題を確認し、戦略計画を具体的な行動につなげるよう各クラブへ働きかけていると報告。7 クラブ中 5 クラブの公式訪問が終了し、残る訪問は 11 ～ 12 月に予定する。会長幹事会は 8 月に開催し、次回も計画中。IM は 2 月 6 日に、少年スポーツ関係者等を招き、地域の未来をテーマとするグループディスカッションを予定する。

5 ラーニング 財団関係の報告

ローターアクト委員会および担当ガバナー補佐

青山委員長より、地区内 8 ローターアクトクラブの例会に参加し、活動状況や意見を把握していると報告。3 月 20 ～ 21 日の全国大会に向けて準備を進め、提唱クラブ以外にも説明に訪問する予定。提唱クラブへの公式訪問にも参加する。各クラブのローターアクト担当者を集めた意見交換の場を 11 月後半に検討している。

地区ラーニング管理運営委員会およびRLI推進委員会

7 月 29 日に第 1 回委員会を開催し、ファシリテーターの担当セッションと役割を決定。8 月 8 日に前橋の問屋センター会館で研修会を実施した。RLI セミナーはパート 1 を 9 月 6 日、パート 2 を 10 月 4 日に実施し、パート 3 を 11 月 8 日に予定。会長エレクト、次年度幹事、ローターアクター、希望会員等が受講。修了者を中心にクラブ内研修へ経験を生かし、活性化につなげるよう要請した。報告者氏名は要確認。

ロータリーの友地区委員会

後藤委員長より、全国 34 地区の関係者によるオンライン会議に年 2 回参加する旨の報告。地区・各クラブに積極的な投稿を依頼する。2027 ～ 2028 年度から「ロータリーの友」の委員会体制が変更され、全地区ガバナーが委員となる旨の連絡があったとの説明。地区委員会への影響や正式な制度内容は通知文で確認する。

ロータリー財団委員会

小林委員長より、補助金配分を終え、9 月 5 日に財団関係セミナーを実施したと報告。今後、地区補助金・ポリオ・グローバル補助金等の活動が本格化するため、引き続き協力を要請。11 月の財団月間に向け、クラブからの依頼に応じて出前卓話を行い、財団への理解を深める。

ポリオプラス寄付推進関係委員会

水石委員長より、各種会議・セミナーでポリオプラス・ソサエティへの参加を呼びかけているが、申込みが少ないと報告。出前卓話で根絶活動の現状を説明する。地区戦略計画の 1 人当たり 30 ドルの寄付目標に加え、70 ドルを上乗せした年間 100 ドルへの協力を求める意向が示された。目標変更の決議ではない。委員会正式名称は要確認。

地区補助金委員会

唐沢委員長より、10 クラブ以上が事業を完了し、報告書提出も順調で、年内には半数以上が終了する予定と報告。11 月 7 日の委員会で次年度申請書の確認事項を研修し、分区担当委員が申請を支援する。次年度申請期限は 1 月 14 日。予備審査会は 1 月 23 日、2 月 27 日、4 月 17 日、最終審査会は 5 月 15 日を予定。資金管理委員会と協力して報告書・申請書を審査する。

6 補助金 広報 奉仕活動の報告

グローバル補助金委員会

前年度末に申請した奨学生について、7 月 14 日に承認を受け、補助金を本人へ全額交付したと報告。本人の留学先はロンドンとの説明があったが、氏名、交付金額、報告例会の日付は要確認。9 月 5 日のセミナー分科会で各クラブに活用を呼びかけた。人道的事業と VTT（職業研修チーム）については現時点で申請がなく、未利用クラブや海外の姉妹・提携クラブを持つクラブ等へ働きかける。

奨学金については現時点で 2 件の相談・問合せがあり、委員会として支援する。10 月末を当面の締切とし、その後も可能性があれば随時相談に応じる意向が示された。正式な募集期限と申請可能期間は募集要項等で確認する。

公共イメージ ICT推進委員会

田島委員長より、9 月 16 日に第 1 回委員会を開催したと報告。2 月 23 日のロータリーデーに合わせた新聞広告、4 月 25 日の地区大会で配布するロータリアンカードのデザインを検討している。地区公式 SNS の開設と運用ガイドライン、各クラブの Facebook・Instagram との連携も検討する。

ストーリーテリングキャンペーンは 11 月 1 日締切で、現時点の応募は 2 クラブ。ガバナー補佐から各クラブへ再度応募を呼びかけるよう要請した。

参加意欲向上促進委員会

星野委員長より、クラブ相互の訪問を通じた活動・例会の情報共有を進めると報告。8 月にメークアップのアンケートを実施し、概ね前向きな反応を得た。一方、事務局の負担増や制度への誤解があり、説明と運用整備を進める。

地区共通ガイドライン案は、原則 1 週間前の連絡、参加費 2,000 円を基本とする精算方法等を A4 判 1 枚に整理する構想。差額負担・余剰金の扱いは正式案の確認が必要。SNS の共通ハッシュタグによる投稿協力、QR コードと Google フォームによる公開例会情報・チラシの登録も検討する。12 月の委員会で了承を得たうえで 1 月からの運用開始を目指す。受入れや訪問が多いクラブ・会員の表彰も提案された。いずれも検討段階である。

奉仕プロジェクト委員会

島田委員長より、1 月 17 日開催のセミナーを準備中と報告。障害のある人の雇用を主題とし、「障害のある人と共に働くを考える 知る つながる 一歩踏み出すための地域支援」という趣旨の副題を紹介した。各クラブへの事前アンケートを基に内容を充実させ、クラブの奉仕プロジェクトにもつながるセミナーを目指す。副題の正確な表記は案内文で確認する。

7 青少年 奨学事業の報告

青少年交換委員会

新井委員長より、前年度の長期派遣学生 3 名および受入学生 3 名が無事に帰国したと報告。今年度の短期交換はフランス・ドイツ・フィンランド等への約 3 週間の派遣と、米国等からの受入れを行い、いずれも無事終了した。長期交換は米国 2 名・フィンランド 1 名を派遣し、同じく米国 2 名・フィンランド 1 名を受け入れている。次年度は長期・短期各 5 名の募集計画に対し、選考結果は短期 6 名、長期 1 名となった。

クラブ同士の青少年交換も地区を通じた許可・ガバナーの承認等の所定手続が必要との注意喚起があった。短期間でも規則を守り、地区の交換資格に影響が及ばないよう徹底するよう要請。発言中の「違法」は法令上の判断として採用せず、ロータリーの規則・認証上の注意として記録する。

インターアクト委員会

田原委員長より、7 月 18 日に年次大会を開催したと報告。参加者はインターアクター 164 名、教員 20 名、ロータリアン 74 名、来賓関係者 7 名の合計 265 名。15 校の活動報告と基調講演を実施した。講師の氏名・所属の正式表記は要確認。

台湾への海外研修は約 20 名を募集し、3 月 25 ～ 28 日の 3 泊 4 日を予定。台湾側の受入れは 4 月 23 ～ 25 日を予定し、伊勢崎地区の学校等および関係クラブが対応する趣旨の説明があった。双方に 1 泊のホームステイがあり、男女別の人数調整等のためロータリアン家庭の協力を要請した。従来の新潟側地区との合同事業から、第 2840 地区単独の事業となる。派遣・受入れの書類や安全管理体制を整備する。受入校・担当クラブ名は要確認。

RYLA 学友委員会

藤沢委員長より、第 25 回 RYLA 研修会を 12 月 12 日に開催予定と報告。テーマは「仲間とつくるチームの力 スポーツ鬼ごっこで学ぶリーダーシップ」。ホストの桐生赤城クラブと準備を進め、各クラブに参加促進を要請した。学友については、プログラム終了後もロータリーとのつながりを保てるよう、継続して機能する学友会の組織体制や活動内容の検討を開始した。

米山記念奨学委員会

柳委員長より、2026 学年度は新規 15 名・継続 14 名の計 29 名で開始し、9 月末に 2 名が卒業したため現在 27 名を受け入れていると報告。次年度の受入枠は 27 名で、1 月に選考会を予定する。7 月 25 日の学友会総会に先立ち、新規奨学生向けにロータリーを学ぶセミナーを初開催した。学友の協力によるグループディスカッションも実施。指定校説明会は 8 月 26 日、カウンセラーセミナーは 9 月 26 日に実施した旨の報告があった。

8 ローターアクト報告 講評 確認事項

ローターアクト地区連絡協議会

飯塚議長より、7 月 19 日に 8 クラブ合同のガバナー公式訪問を終え、地区連絡協議会は毎月開催していると報告。SNS 運用担当を新設し、活動 PR と認知向上に取り組む。クラブ担当アドバイザー 4 名が合同例会等の企画を支援している。

8 クラブ合同事業として、伊香保温泉を巡る群馬の魅力スタンプラリーを実施し、11 月 1 日に出発式を予定。8 か所にスポットを設け、応募期間は 3 月末までとする。2 月 14 日に群馬交響楽団の団員を招いた音楽会を企画。3 月 20 ～ 21 日に第 39 回全国ローターアクト大会を地区ホストで開催し、参加者 500 人を目指して全国で PR している。地区年次大会は全国大会との調整から 6 月 12 日に予定。ローターアクトは若者のリーダーシップ育成と奉仕による地域・国際社会への貢献を目的とし、楽しく真剣に活動しているとの説明があった。

9 講評および閉会

地区ラーニング管理運営委員会の森田副委員長より講評。各分区・委員会の実績と課題を共有し、今後の計画や実践に生かす合同会議であったと評価した。年度前から準備を進めてきた

成果を互いに共有し、継続的に活用するよう求めた。

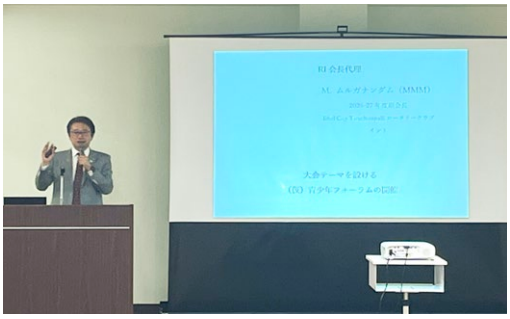
午前の諮問委員会でガバナー事務所の残業・業務負担が話題となったことを紹介。地区内43 クラブ、2,000 人以上の会員への対応を限られた職員で担っているため、各委員会・地区スタッフが配信や出欠管理等を含めて分担し、事務局負担に配慮して円滑な運営に協力するよう要請した。司会より閉会を宣言した。

10 主な依頼事項と未確認事項

主な依頼事項は、①各委員会による戦略計画と事業の照合・進捗点検、②ガバナー補佐による分区協議と未報告行事の連絡、③ 11 月 1 日締切のストーリーテリング応募の再周知、④各研修・大会への参加促進、⑤青少年交換の許可手続の徹底、⑥ホームステイ受入家庭の協力、⑦ガバナー事務所の業務負担軽減である。

正式保存・配布に当たっては、開催日時・会場・出席者、ガバナーおよび報告者の氏名、各委員会の正式名称、RI 来賓の氏名・役職、会計数値・分担金、RI 会員増強目標、各行事の日付と曜日、奨学生の氏名・交付額等を当日資料と照合する。年度内行事は原則として 2026 年秋から 2027 年 6 月の文脈だが、誤記を避けるため本文では発言どおり月日を中心に記載した。

本記録上、分担金引下げ、独自奨学制度、メークアップ共通運用等は提案・検討事項であり、正式決議としては扱っていない。











第 5 回地区ラーニング・管理運営委員会

● 日　時：2026年10月17日(土)14:50〜16:00
● 会　場：ガバナー事務所
● 出席者：竹中　隆ガバナー、森田高史パストガバナー、中野正美パストガバナー、
森　末廣直前ガバナー、湯澤　晃ガバナーエレクト
板橋一博ガバナーノミニー、小磯正康地区ラーニング･管理運営委員、
新井良和地区ラーニング･管理運営委員、津久井　功地区ラーニング･管理運営委員、
小日向和博地区副幹事
● 報告者：地区副幹事　小日向和博(安中RC)

10月17日に第5回地区ラーニング･管理運営委員会が開催され、今年度のセミナーと地区大会について話し合いがされました。第1回新会員セミナーについては退会させない理由を議論しました。スイッチをどこかで入れてもらえるようにフォローしながら、あまり考えすぎないように伝えられるような講演が出来ればとの意見がまとまりました。また、危機管理セミナーと青少年保護セミナーについては、危機管理方針のようなものを作成し、クラブに持ち帰ってもらうよう投げかけることが出来ればとの事でまとまり、最終判断はあくまでもクラブ判断でとの事で一致しました。また、危機管理＝青少年保護ではないが同趣旨なので統合し一緒に開催する事で決定しました。その後、地区大会についてにも触れ閉会となりました。

挨拶　竹中　隆　ガバナー
森田　高史　地区ラーニング･管理運営委員会副委員長

議事　今年度のセミナーについて
危機管理セミナーについて
青少年保護セミナーについて
地区大会について

委員会年間開催予定の確認

第6回　2027年 2月13日(土)12:00〜　ガバナー事務所
第7回　2027年 4月 3日(土)15:30〜　ガバナー事務所





ローターアクトニュースレター
群馬新潟合同行事

● 日　程：2026年9月26日（土）・27日（日）
● 場　所：新潟県十日町市
● 報 告 者：地区ロータアクト代表　飯塚もも子（高崎北RAC）





9月26日・27日、新潟県十日町市にて、国際ロータリー第2560地区ローターアクトをホストとした、群馬・新潟地区合同行事が開催されました。当行事は、かつて両地区が一つの地区であったことから、毎年ホストを持ち回りで開催しています。

本年度は新潟の地で「新潟らしい体験を」ということで、稲刈り体験を企画していただきました。当日は、両地区のローターアクター約20名が集まり、稲刈りや宿泊を通じて交流を深めました。実際に田んぼに入り、鎌を使って手作業で稲を刈る作業は大変でしたが、参加者は楽しみながら取り組み、収穫の喜びを体験しました。農家の方々が丹精込めて育てたお米を実際に自分たちの手で収穫することで、普段何気なく食べているお米のありがたさを改めて実感し、大切にいただきたいという思いを持つことができました。

これからも両地区の交流を大切にし、互いの地域の魅力を知りながら、ローターアクトならではのつながりを育んでいきたいと思います。



国際ロータリー第 2840 地区 2026-2027 年度

ガバナー公式訪問要領

1. ガバナー公式訪問は、単独クラブ訪問とします。

2. 訪問時は、ガバナー、ガバナー補佐、及び地区幹事又は分区担当副幹事のいずれか 1 名の計 3 ～ 4 名が原則訪問します。

3. **公式訪問前クラブ協議会の実施**

   ガバナー補佐は、公式訪問前 2 週間前までに所管のクラブを訪問し、例会前後の時間等を利用してクラブ役員との協議会を実施し、各クラブの現況や課題、クラブの目標や地区運営に関する意見等について協議するとともに、公式訪問についての事前協議を行ってください。
   また、その結果を所定の様式にて公式訪問の 1 週間前までにガバナー事務所まで報告してください。上記は、数名のクラブ役員との懇談でも結構です。

4. **クラブ例会内での公式訪問の趣旨説明**

   ガバナー補佐は、公式訪問前のクラブの例会において、公式訪問の趣旨や要領、また、現状の地区運営の状況などを１０分～１５分程度、クラブ会員に対して説明し、出席を奨励してください

5. **公式訪問の進め方**

   （1）クラブ役員との懇談会〔例会前 50 分〕
   会長、幹事、会長エレクト、クラブ・ラーニング・ファシリテーター、副会長、会員増強委員長、公共イメージ委員長、クラブが課題と認識している担当委員長等、及び地区役員、インターアクト、ローターアクト提唱クラブは、各会長も出席してください。

   （2）例会
   ガバナースピーチとして２５分程度時間を割いてください。プロジェクター、スクリーンの準備をお願いします。

   （3）クラブ協議会〔例会後 60 分〕
   懇談会参加者のほか、各委員長、新入会員を義務出席とし、会員全員に出席を奨励してください。本年度は、特に地区とクラブの双方向性をキーワードとしておりますので、双方向の協議が十分できるような設営をお願いします。協議内容については以下の項目を入れてください。

   ①クラブの課題
   ②クラブの目標（特に会員増強計画）の進捗状況
   ③地区運営に関するクラブのご意見

6. **公式訪問の目的は、国際ロータリー細則に以下のように規定されています。**

   個々のクラブあるいは複数クラブ合同の例会への公式訪問を行うこと。その際には、以下を行うため、ガバナーの出席が最大限の成果を生むような機会を選ぶようにする。

   ①ロータリーの重要な問題に焦点を当て関心を持たせる。
   ②弱体クラブ、あるいは問題を抱えたクラブに関心を払う。
   ③奉仕活動参加へのロータリアンの意欲をかきたてる。
   ④クラブの定款と細則が、ロータリーの組織規程を遵守していることを確認する。
   ⑤顕著な貢献をした地区内のロータリアンをガバナー自ら表彰する。

7. 各クラブは現況報告書（4 部）を 8 月 31 日までにガバナー事務所に提出してください。
   9 月 12 日までに訪問するクラブは仮報告書を、訪問 2 週間前までに提出してください。

2026-2027年度　ガバナー公式訪問日程表

2026年 8月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 前橋北 （第 1 分区）	18	19	20 碓氷安中 （第 6 分区）	21	22
23／30	24 桐生 （第 2 分区 A）	25 伊勢崎南 （第 2 分区 B）	26	27 渋川 （第 5 分区）	28	29

2026年 9月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		1	2 新田富 （第 4 分区 A）	3 富岡中央 （第 6 分区）	4	5
6	7	8 太田南 （第 4 分区 A）	9 桐生南 （第 2 分区 A）	10 藤岡 （第 6 分区）	11 藤岡南 （第 6 分区）	12
13	14 伊勢崎東 （第 2 分区 B）	15 渋川みどり （第 5 分区）	16 富岡 （第 6 分区）	17	18	19
20	21	22	23	24 高崎東 （第 3 分区）	25	26
27	28	29	30	31		

2026-2027 年度　ガバナー公式訪問日程表

2026年 10月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				1 館林ミレニアム （第 4 分区 B）	2 前橋西 （第 1 分区）	3
4	5	6 高崎南 （第 3 分区）	7 前橋中央 （第 1 分区）	8 沼田中央 （第 5 分区）	9 館林 （第 4 分区 B）	10
11	12	13	14 ぐんま伊勢崎 （第 2 分区 B）	15 前橋東 （第 1 分区）	16 太田中央 （第 4 分区 A）	17
18	19	20 中之条 （第 5 分区）	21 前橋南 （第 1 分区）	22	23	24
25	26 高崎 （第 3 分区）	27 沼田 （第 5 分区）	28	29	30	31

2026年 11月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2	3	4 館林東 （第 4 分区 B）	5 群馬境 （第 2 分区 B）	6	7
8	9	10 高崎セントラル （第 3 分区）	11 大泉 （第 4 分区 B）	12	13 高崎シンフォニー （第 3 分区）	14
15	16	17 桐生赤城 （第 2 分区 A）	18 伊勢崎 （第 2 分区 B）	19 太田 （第 4 分区 A）	20	21
22	23	24 前橋 （第 1 分区）	25 太田西 （第 4 分区 A）	26	27	28
29	30	31				

2026年 12月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		1	2	3	4	5
6	7	8 富岡かぶら （第 6 分区）	9 高崎北 （第 3 分区）	10 伊勢崎中央 （第 2 分区 B）	11 桐生西 （第 2 分区 A）	12
13	14	15 安中 （第 6 分区）	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2026-2027 年度　地区主要行事予定表

日付		時間帯	項目	場　所
2026年				
7月	01(水)		竹中ガバナー事務所開設	
	11(土)	10～	第１回ガバナー諮問委員会	ホテルメトロポリタン高崎
	11(土)	13～	第４回地区ラーニング・管理運営委員会	ホテルメトロポリタン高崎
	16(木)	18:30～	<ロータリー野球大会コミッショナー会議>	ニューいづみ
	18(土)	午前	(インターアクト年次大会)	メガネのイタガキ文化ホール
	25(土)	10:00～	★ロータリー財団委員会合同会議	前橋問屋センター会館
	25(土)	15:30～	★米山記念奨学生対象ロータリーセミナー	ホテルメトロポリタン高崎
	25(土)	17:30～	★(米山学友会総会)	ホテルメトロポリタン高崎
8月	01(土)	9～	(第１回地区補助金委員会)	前橋問屋センター会館
	08(土)	13～	(ＲＬＩファシリテーター研修会)	前橋問屋センター会館
	23(日)	午後	(青少年交換派遣学生選考会)	前橋問屋センター会館
	26(水)	12～	(米山指定校説明会)	前橋問屋センター会館
	29(土)	午前	<ロータリー野球大会第１日目開会式>	前橋桃ノ木川グランド
	30(日)	13:30	～クラブ活性化ワークショップ	前橋問屋センター会館
9月	01(火)		湯澤ガバナーエレクト事務所開設	
	05(土)	午後	ロータリー財団補助金管理セミナー	前橋問屋センター会館
	06(日)	終日	(ＲＬＩセミナーPartⅠ)	前橋問屋センター会館
	12(土)	午前	<ロータリー野球大会第２日目>	前橋桃ノ木川グランド
	19(土)	午前	<ロータリー野球大会第3日目>	前橋桃ノ木川グランド
	26(土)	午前	(米山記念奨学生カウンセラー研修会)	前橋問屋センター会館
	26(土)	午後	(地区米山記念奨学セミナー)	前橋問屋センター会館
	27(日)	12:30～	(青少年交換派遣学生帰朝報告会・受け入れ学生歓迎会)	ホテルメトロポリタン高崎
10月	04(日)	終日	(ＲＬＩセミナーPartⅡ)	前橋問屋センター会館
	17(土)	午前	<ロータリー野球大会第4日目閉会式>	前橋桃ノ木川グランド
	17(土)	午前	第２回ガバナー諮問委員会	前橋問屋センター会館
	17(土)	午後	第３回ガバナー補佐・委員長合同会議	前橋問屋センター会館
	17(土)	15:30～	第５回地区ラーニング・管理運営委員会	ガバナー事務所
11月	02(月)	17:00～	第1回地区ラーニング・管理運営委員会（湯澤年度）	ガバナー事務所
	07(土)	9～	(第２回地区補助金委員会)	前橋商工会議所会館
	07(土)	午前	<ロータリー野球大会予備日>	前橋桃ノ木川グランド
	08(日)	終日	(ＲＬＩセミナーPartⅢ)	前橋問屋センター会館
	21(土)	午後	第1回ガバナー補佐会議（湯澤年度）	前橋問屋センター会館
	22(日)	14:30～	新会員セミナー	エルテラス(旧マリエール高崎)
	28(土)	午後	(米山記念奨学生選考会面接員オリエンテーション)	ホテルメトロポリタン高崎
	28(土)	夕方	(米山学友会忘年会)	ホテルメトロポリタン高崎
12月	05(土)	午後	第１回ガバナー補佐・委員長予定者合同会議（湯澤年度）	群馬会館
	05(土)	午後	第３回ガバナー諮問委員会	ロイヤルチェスター前橋
	05(土)	夕方	湯澤ガバナーエレクト壮行会	ロイヤルチェスター前橋
	12(土)	9:30～	(ＲＹＬＡ研修セミナー)	KIRINAN BASE体育館
	20(日)		(青少年交換HC・SCオリエンテーション・クリスマス会)	PROM新前橋

2026-2027年度　地区主要行事予定表

日付		時間帯	項目	場　所	
2027年					
1月	10(日)～14(木)		国際協議会（湯澤ガバナーエレクト参加）	オーランド（フロリダ州）	
	17(日)	午後	（奉仕プロジェクトセミナー）	前橋問屋センター会館	
	23(土)	終日	（米山記念奨学生選考会）	前橋問屋センター会館	
	23(土)	13:00～	（第１回地区補助金予備審査会）	前橋商工会議所会館	
2月	13(土)	午前	第４回ガバナー諮問委員会・GE 報告会	前橋問屋センター会館	
	13(土)	12:00～	第６回地区ラーニング・管理運営委員会	ガバナー事務所	
	13(土)	午後	地区チームラーニングセミナー（湯澤年度）	前橋問屋センター会館	
	21(日)	午後	青少年交換 HC・SC オリエンテーション		
	23(火･祝)		ロータリー創立記念日		
	27(土)	13:00～	（第2回地区補助金予備審査会）	前橋商工会議所会館	
	28(日)	午後	第２回ガバナー補佐･委員長予定者合同会議（湯澤年度）	前橋問屋センター会館	
3月	6(土)	17:00～	（米山記念奨学生終了式・歓送会）	ホテルメトロポリタン高崎	
	13(土)～14(日)		会長エレクト・次年度幹事ラーニングセミナー（湯澤年度）	伊香保温泉ホテル天坊	
	20(土)～21(日)		第 39 回全国ローターアクト大会	伊香保温泉ホテル天坊	
	25(木)～28(日)		（インターアクト台湾国際交流事業・派遣）		
４月	03(土)	午前	第５回ガバナー諮問委員会前橋問屋センター会館	前橋問屋センター会館	
	03(土)	午後	第４回ガバナー補佐・委員長合同会議	前橋問屋センター会館	
	03(土)	15:30～	第７回地区ラーニング・管理運営委員会	前橋問屋センター会館	
	17(土)	9:00～	（第3回地区補助金予備審査会）	前橋商工会議所会館	
	17(土)	午前	（新規米山記念奨学生カウンセラーオリエンテーション）	前橋問屋センター会館	
	17(土)	午後	（新規米山記念奨学生・カウンセラーオリエンテーション）	前橋問屋センター会館	
	17(土)	午後	（継続米山記念奨学生資格審査面談）	前橋問屋センター会館	
	23(金)～24(土)		（インターアクト台湾国際交流事業・受入れ）		
	24(土)	午後	地区リーダーシップセミナー	ホテルメトロポリタン高崎	
	24(土)	夜	ＲＩ会長代理歓迎晩餐会	ホテルメトロポリタン高崎	
	25(日)	午後	地区大会式典	群馬音楽センター	
	25(日)	夜	地区大会懇親会	ホテルメトロポリタン高崎	
			ローターアクト会長エレクト・次年度幹事ラーニングセミナー		
			地区大会記念ゴルフ大会		
5月	15(土)	13:00～	地区補助金最終審査会	前橋商工会議所会館	
	16(日)	午後	青少年交換 HC オリエンテーション		※
	23(日)	終日	クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー（湯澤年度）	前橋商工会議所会館	※
6月	05(土)	午後	新会員セミナー		
	07(月)	14～	クラブ管理運営セミナー（湯澤年度）		
	12(土)		（ローターアクト年次大会）		
	19(土)	午後	第６回ガバナー諮問委員会	ホテルメトロポリタン高崎	
	19(土)	午後	現新地区役員合同連絡会議	ホテルメトロポリタン高崎	
	26(土)～30(水)		国際大会バルセロナ	バルセロナ	
	27(日)		（青少年交換受入学生歓迎会・派遣学生壮行会）		
			（米山記念奨学生指定校選定会議）		

※クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー（湯澤年度）が上記の５月 23 日（日）に変更となりました。
※青少年交換 HC オリエンテーションが上記の５月 16 日（日）に変更となりました。

2026-2027 年度　周年行事・IM 開催予定表

2026-2027 年度　周年行事予定クラブ

年	月	日	曜日	周年	クラブ名	場　　所
2026	11	8	日	55	桐生西RC	美喜仁桐生文化会館
2027	2	27	土	60	大泉RC	太田グランドホテル（予定）
2027	3	6	土	70	太田RC	ロイヤルチェスター太田
2027	4	10	土	70	渋川RC	プレヴェール渋川
2027	4	16	金	35	太田中央RC	ダニエルハウス
2027	4	17	土	50	前橋東RC	ロイヤルチェスター前橋
2027	5	8	土	45	前橋北RC	前橋商工会議所会館
2027	5	29	土	65	高崎南RC	ホテルメトロポリタン高崎
2027	6	12	土	30	桐生赤城RC	美喜仁桐生文化会館
未定				55	太田西RC	未 定

2026-2027 年度　IM 開催予定表

年	月	日	曜日	区　　分	場　　所
2027	2	9	火	第1分区	前橋商工会議所会館
2027	2	20	土	第2分区A	桐生地域地場産センター
2027	2	15	月	第2分区B	伊勢崎プリオ
2027	2	21	日	第3分区	ホテルグランビュー高崎
2027	3	25	木	第4分区A	ロイヤルチェスター太田
2027	3	27	土	第4分区B	里沼リゾート Hotel KOMORINU
2026	11	20	金	第5分区	プレヴェール渋川
2027	2	6	土	第6分区	藤岡商工会議所

出席報告（9 月末日現在）• My Rotary 登録率

クラブ数	年度初（女性）	当月初（女性）	新会員（女性）	退会数（女性）	月末数（女性）	純増減（女性）
43	2007(183)	2065(196)	11(2)	2(0)	2074(198)	67(15)
	自クラブ出席率		当月出席率（メイク含む）		受入れメイク数	MyRotary 登録率（10月26日現在）
	67.4%		74.9%		115	74.96%

※純増減は年度初の会員数との対比となります。

	クラブ名	回数	自クラブ出席率	会員数（純増減は年度初数との対比となります）						メイク	出席率	受メイク入れ	MyRotary 登録率（10月26日現在）
				年度初（女性）	当月初（女性）	新会員（女性）	退会数（女性）	月末数（女性）	純増減（女性）				
第1分区	前橋	4	63.97%	123 (13)	122 (13)	1 (0)	0 (0)	123 (13)	0 (0)	7	65.32%	0	87.80%
	前橋西	4	77.64%	54 (5)	61 (5)	3 (1)	0 (0)	64 (6)	10 (1)	3	78.99%	1	72.31%
	前橋東	3	63.00%	47 (3)	49 (3)	0 (0)	0 (0)	49 (3)	2 (0)	19	77.35%	0	76.00%
	前橋北	3	82.67%	77 (1)	80 (1)	0 (0)	0 (0)	80 (1)	3 (0)	0	82.67%	9	81.01%
	前橋南	3	66.00%	50 (3)	50 (3)	0 (0)	0 (0)	50 (3)	0 (0)	2	71.30%	0	80.77%
	前橋中央	3	69.33%	24 (5)	24 (5)	1 (0)	1 (0)	24 (5)	0 (0)	3	73.33%	0	76.00%
	合計		70.44%	375 (30)	386 (30)	5 (1)	1 (0)	390 (31)	15 (1)		74.83%	10	78.98%
第2分区A	桐生	3	55.83%	69 (10)	71 (10)	0 (0)	0 (0)	71 (10)	2 (0)	30	72.38%	9	78.87%
	桐生南	3	77.62%	36 (3)	37 (3)	0 (0)	0 (0)	37 (3)	1 (0)	6	83.47%	7	64.86%
	桐生西	4	62.54%	51 (11)	52 (12)	1 (0)	0 (0)	53 (12)	2 (1)	25	74.38%	1	86.79%
	桐生赤城	4	64.15%	41 (7)	44 (8)	0 (0)	0 (0)	44 (8)	3 (1)	38	83.23%	28	79.55%
	合計		65.04%	197 (31)	204 (33)	1 (0)	0 (0)	205 (33)	8 (2)		78.37%	45	77.52%
第2分区B	伊勢崎	4	88.53%	50 (2)	52 (3)	0 (0)	1 (0)	51 (3)	1 (1)	17	97.03%	0	96.08%
	群馬境	3	79.36%	23 (2)	23 (2)	0 (0)	0 (0)	23 (2)	0 (0)	0	79.36%	0	39.13%
	伊勢崎中央	4	71.00%	100 (10)	102 (11)	0 (0)	0 (0)	102 (11)	2 (1)	19	74.50%	0	69.61%
	伊勢崎南	3	80.30%	24 (2)	24 (2)	0 (0)	0 (0)	24 (2)	0 (0)	0	80.30%	4	100.00%
	伊勢崎東	3	62.25%	42 (3)	41 (3)	1 (1)	0 (0)	42 (4)	0 (1)	0	62.25%	0	92.86%
	ぐんま伊勢崎	3	61.70%	34 (3)	48 (8)	0 (0)	0 (0)	48 (8)	14 (5)	0	61.70%	2	58.33%
	合計		73.86%	273 (22)	290 (29)	1 (1)	1 (0)	290 (30)	17 (8)		75.86%	6	76.00%
第3分区	高崎	3	57.63%	142 (12)	144 (12)	0 (0)	0 (0)	144 (12)	2 (0)	31	64.81%	1	55.56%
	高崎南	4	62.26%	65 (10)	67 (10)	1 (0)	0 (0)	68 (10)	3 (0)	6	66.67%	1	52.94%
	高崎北	4	52.72%	79 (1)	80 (1)	0 (0)	0 (0)	80 (1)	1 (0)	23	60.06%	12	62.50%
	高崎東	4	67.86%	29 (4)	29 (4)	0 (0)	0 (0)	29 (4)	0 (0)	12	78.57%	0	72.41%
	高崎シンフォニー	3	71.11%	46 (10)	46 (10)	0 (0)	0 (0)	46 (10)	0 (0)	10	78.52%	0	100.00%
	高崎セントラル	4	68.25%	32 (1)	32 (1)	0 (0)	0 (0)	32 (1)	0 (0)	8	74.60%	0	59.38%
	合計		63.31%	393 (38)	398 (38)	1 (0)	0 (0)	399 (38)	6 (0)		70.54%	14	67.13%

クラブ名		回数	自クラブ出席率	会員数 （純増減は年度初数との対比となります）						メイク	出席率	受入れメイク	MyRotary登録率 (10月26日現在)
				年度初（女性）	当月初（女性）	新会員（女性）	退会数（女性）	月末数（女性）	純増減（女性）				
第4分区A	太田	4	56.12%	67 (3)	67 (3)	1 (0)	0 (0)	68 (3)	1 (0)	1	56.48%	0	98.53%
	太田西	3	79.12%	11 (1)	11 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (1)	0 (0)	4	100.00%	0	63.64%
	太田南	3	58.67%	49 (5)	50 (5)	0 (0)	0 (0)	50 (5)	1 (0)	0	58.67%	5	94.00%
	新田	3	61.67%	20 (3)	20 (3)	0 (0)	0 (0)	20 (3)	0 (0)	2	65.00%	1	45.00%
	太田中央	3	44.45%	48 (7)	51 (8)	0 (0)	0 (0)	51 (8)	3 (1)	5	47.71%	0	84.31%
	合計		60.01%	195 (19)	199 (20)	1 (0)	0 (0)	200 (20)	5 (1)		65.57%	6	77.10%
第4分区B	館林	3	73.07%	49 (4)	49 (4)	0 (0)	0 (0)	49 (4)	0 (0)	10	80.52%	0	85.71%
	大泉	3	71.32%	23 (3)	24 (3)	0 (0)	0 (0)	24 (3)	1 (0)	3	76.40%	0	20.83%
	館林東	2	91.67%	9 (1)	9 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (1)	0 (0)	1	100.00%	0	44.44%
	館林ミレニアム	2	83.18%	27 (1)	27 (1)	0 (0)	0 (0)	27 (1)	0 (0)	1	85.68%	1	100.00%
	合計		79.81%	108 (9)	109 (9)	0 (0)	0 (0)	109 (9)	1 (0)		85.65%	1	62.75%
第5分区	渋川	2	74.56%	60 (8)	60 (8)	0 (0)	0 (0)	60 (8)	0 (0)	18	90.35%	0	66.67%
	沼田	4	67.31%	68 (3)	70 (3)	0 (0)	0 (0)	70 (3)	2 (0)	7	69.99%	26	98.57%
	中之条	3	71.28%	16 (0)	17 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (0)	1 (0)	2	75.12%	0	47.06%
	沼田中央	3	56.92%	48 (3)	51 (4)	0 (0)	0 (0)	51 (4)	3 (1)	42	86.11%	1	98.04%
	渋川みどり	4	48.79%	45 (6)	45 (6)	0 (0)	0 (0)	45 (6)	0 (0)	17	57.73%	5	95.56%
	合計		63.77%	237 (20)	243 (21)	0 (0)	0 (0)	243 (21)	6 (1)		75.86%	32	81.18%
第6分区	富岡	4	81.14%	44 (3)	44 (3)	1 (0)	0 (0)	45 (3)	1 (0)	4	83.77%	0	57.78%
	藤岡	3	57.99%	42 (3)	42 (3)	0 (0)	0 (0)	42 (3)	0 (0)	12	68.07%	0	80.95%
	安中	3	41.81%	55 (2)	55 (2)	0 (0)	0 (0)	55 (2)	0 (0)	34	62.42%	0	54.55%
	富岡中央	3	76.41%	35 (3)	36 (3)	0 (0)	0 (0)	36 (3)	1 (0)	6	81.08%	0	72.22%
	碓氷安中	2	70.00%	7 (0)	9 (0)	1 (0)	0 (0)	10 (0)	3 (0)	0	70.00%	1	66.67%
	藤岡南	2	65.52%	17 (0)	19 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (1)	2 (1)	4	79.31%	0	68.42%
	富岡かぶら	3	48.89%	29 (3)	31 (4)	0 (0)	0 (0)	31 (4)	2 (1)	12	61.11%	0	48.39%
	合計		63.11%	229 (14)	236 (16)	2 (0)	0 (0)	238 (16)	9 (2)		72.25%	1	64.14%

新会員紹介



氏　名　**五十嵐 俊治**
クラブ　前橋西
入会日　2026年8月21日
職業分類　AI･システム開発／大学教員
勤務先　オーグメンテッドコミュニケーションズ㈱
役　職　代表取締役 CEO
推薦者　金井　修



氏　名　**山根 洋平**
クラブ　前橋西
入会日　2026年8月21日
職業分類　情報通信業
勤務先　サンダーバード㈱
役　職　代表取締役
推薦者　金井　修



氏　名　**木暮 正樹**
クラブ　前橋西
入会日　2026年8月21日
職業分類　公共事業
勤務先　めぶくグラウンド㈱
役　職　代表取締役社長
推薦者　金井　修



氏　名　**眞下 尚磯**
クラブ　前橋西
入会日　2026年8月21日
職業分類　銀行業
勤務先　東和銀行　本店営業部
役　職　常務執行役員　本店営業部長兼新前橋支店長
推薦者　松本 政治



氏　名　**石巻 幸之介**
クラブ　前橋西
入会日　2026年8月21日
職業分類　人材紹介　人材派遣
勤務先　群馬総合スタッフ㈱
役　職　専務取締役
推薦者　金井　修



氏　名　**木暮 勇斗**
クラブ　前橋西
入会日　2026年8月21日
職業分類　建築設計・建築施工・不動産業
勤務先　LLE㈱・IINE㈱
役　職　代表取締役
推薦者　金井　修



氏　名　**阿久津 隆幸**
クラブ　前橋西
入会日　2026年9月4日
職業分類　企業向け基幹業務ソフトウェア開発
勤務先　㈱システムサポート
役　職　代表取締役
推薦者　石井國雄



氏　名　**横山　茜**
クラブ　前橋西
入会日　2026年9月4日
職業分類　旅行サービス手配業
勤務先　AKconnect㈱
役　職　代表取締役
推薦者　安田 浩士



氏　名　**星野 靖智**
クラブ　前橋南
入会日　2026年10月7日
職業分類　飲食店業
勤務先　㈱H＆A
役　職　代表取締役
推薦者　橘田 敦士



氏　名　**村田　一行**
クラブ　前橋南
入会日　2026年10月7日
職業分類　ビルメンテナンス業
勤務先　東朋産業㈱
役　職　専務取締役
推薦者　橘田 敦士



氏　名　**濱野 哲也**
クラブ　太田
入会日　2026年9月10日
職業分類　銀行
勤務先　㈱東和銀行　太田・韮川・高林支店
役　職　支店長
推薦者　松本　博

新会員入会実績報告（9 月末日現在）

クラブ名	年度初	新会員　入会目標	新会員　入会実績	達成率	目標残
43	**1973**	**138**	**74**	**54%**	**64**

	クラブ名	年度初	入会目標	入会実績	目標残	達成率
第1分区	前橋	123	2	4	-2	200.0%
	前橋西	54	2	11	-9	550.0%
	前橋東	47	5	2	3	40.0%
	前橋北	77	3	3	0	100.0%
	前橋南	50	5	0	5	0.0%
	前橋中央	24	3	1	2	33.3%
	合計	**375**	**20**	**21**	**-1**	**105.0%**
第2分区A	桐生	69	4	2	2	50.0%
	桐生南	36	5	1	4	20.0%
	桐生西	51	4	3	1	75.0%
	桐生赤城	41	2	3	-1	150.0%
	合計	**197**	**15**	**9**	**6**	**60.0%**
第2分区B	伊勢崎	50	10	2	8	20.0%
	群馬境	23	3	0	3	0.0%
	伊勢崎中央	100	2	4	-2	200.0%
	伊勢崎南	24	3	0	3	0.0%
	伊勢崎東	42	2	1	1	50.0%
	ぐんま伊勢崎	34	10	14	-4	140.0%
	合計	**239**	**20**	**7**	**13**	**35.0%**
第3分区	高崎	142	10	2	8	20.0%
	高崎南	65	5	3	2	60.0%
	高崎北	79	3	3	0	100.0%
	高崎東	29	5	0	5	0.0%
	高崎シンフォニー	46	3	0	3	0.0%
	高崎セントラル	32	2	0	2	0.0%
	合計	**393**	**28**	**8**	**20**	**28.6%**

	クラブ名	年度初	入会目標	入会実績	目標残	達成率
第4分区A	太田	67	5	1	4	20.0%
	太田西	11	1	0	1	0.0%
	太田南	49	2	3	-1	150.0%
	新田	20	2	0	2	0.0%
	太田中央	48	2	4	-2	200.0%
	合計	**195**	**12**	**8**	**4**	**66.7%**
第4分区B	館林	49	5	1	4	20.0%
	大泉	23	4	1	3	25.0%
	館林東	9	3	0	3	0.0%
	館林ミレニアム	27	1	0	1	0.0%
	合計	**108**	**13**	**2**	**11**	**15.4%**
第5分区	渋川	60	3	0	3	0.0%
	沼田	68	3	2	1	66.7%
	中之条	16	1	2	-1	200.0%
	沼田中央	48	6	4	2	66.7%
	渋川みどり	45	2	0	2	0.0%
	合計	**237**	**15**	**8**	**7**	**53.3%**
第6分区	富岡	44	3	3	0	100.0%
	藤岡	42	2	0	2	0.0%
	安中	55	2	0	2	0.0%
	富岡中央	35	2	1	1	50.0%
	碓氷安中	7	2	3	-1	150.0%
	藤岡南	17	2	2	0	100.0%
	富岡かぶら	29	2	2	0	100.0%
	合計	**229**	**15**	**11**	**4**	**53.3%**

＊上記の数値は新会員入会者のみの目標および実績を表記しております。退会者数はカウントしておりません。
よって各クラブの現在の会員数を示すものではありません。

ガバナーコラム 01
会長の言葉は、誰に何を伝えるのか
― RI 会長テーマの変遷から、クラブ会長の年度テーマを考える ―

これからクラブ会長の年度テーマを考える皆さんは、何を出発点にするでしょうか。次年度の RI 会長メッセージでしょうか。取り組みたい事業でしょうか。それとも、会員の顔や、今のクラブの姿でしょうか。

私は、クラブ会長の年度テーマは、会長自身の決意と方針を会員に示す言葉だと思っています。「この一年、私は何を大切にし、皆さんとどこへ進みたいのか」。その意味を考えるために、まず RI 会長のテーマと年次目標が、どのように扱われてきたかを振り返ってみたいと思います。

RI会長テーマと年次目標

RI 会長は長年、毎年のテーマを掲げてきました。かつてのロータリー章典は、RI 会長が在任年度に用いる、会員の意欲を喚起するテーマを選ぶことができると定めていました。そのテーマは RI の戦略計画と一致するものとされ、地区会合や公式訪問などで示すことについても規定がありました。世界のロータリアンが同じ年度を迎えるとき、会長から会員への共通の呼びかけとなる言葉だったのです。[1][2]

一方、章典は「年次テーマ」（Annual Theme）と「年次目標」（Annual Goals）を別の項目として扱っていました。年次目標については、RI 会長エレクトがロータリー財団管理委員長エレクトと協力して、次年度の RI と財団の目標を作り、理事会の審査・承認を受ける手続きが示されています。[2]

私は、この二つの違いを、テーマは「何を大切にして行動するか」という呼びかけ、目標は「その年度に何を目指すか」という具体化として捉えています。テーマが目標の代わりになるわけではなく、目標を並べるだけで会長の思いが伝わるわけでもありません。

年次テーマから、会長メッセージへ

RI 会長の言葉の位置づけは、その後、変わっていきました。2023 年 10 月版のロータリー章典には、地区会合などで年次テーマを示す規定が残っていました。一方、2024 年 10 月版では、該当箇所は「年次目標」（Annual Goals）となり、年次テーマに関する規定は置かれていません。[2][3]

その背景にあるのが、2023 年の RI 理事会決定です。RI は、2025–26 年度から会長ごとの年次テーマとロゴを作る方式をやめ、行動計画に沿った会長メッセージを導入する方針を決めました。RI の資料はこれを、英語で “multi-year Action Plan-led presidential messages”、日本語で「複数年にわたる行動計画を軸とした会長メッセージ」と表しています。[4]

「複数年」といっても、一つの言葉を何年も使い続けるという意味ではありません。RI 会長は今も、自分の年度のメッセージと重点事項を持ちます。ただ、その言葉を毎年独立したテーマとロゴとして作るのではなく、ロータリーが長く目指す方向や、前後の年度とのつながりの中に置くようになったのです。[5]

この変更には異なる意見もありました。2025 年の決議審議会では、年次会長テーマの再導入を検討するよう RI 理事会に求める決議 25R-14 が、賛成 241、反対 211 で採択されました。毎年の RI 会長が、自身の経験や思いを込めて会員を鼓舞するテーマにも価値がある、という声です。

ただし、この決議は再導入そのものを決めたものではありません。[6]

RI 理事会は 2026 年 1 月にこの提案を検討し、再導入には同意しませんでした。毎年異なるテーマとロゴが、特に外部に向けたロータリーのメッセージの一貫性を弱め、制作や運用にも費用がかかることを理由に挙げています。一方で、RI 会長が年度ごとのメッセージと重点事項を持ち続けることも明記しました。[5]

従来の年次会長テーマも、現在の年次会長メッセージも、世界のロータリアンを鼓舞する言葉であることに変わりはありません。違いは、主にその作り方と年度を越えた位置づけにあります。かつてのテーマも RI の戦略計画と無関係ではありませんでしたし、現在のメッセージにも会長自身の呼びかけがあります。その役割がどう変化したのかを見ることが大切だと思います。

ビジョン声明から、年度の言葉を読む

ロータリーのビジョン声明には、こうあります。

"Together, we see a world where people unite and take action to create lasting change — across the globe, in our communities, and in ourselves."

RI 公式日本語訳：「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」[7]

人びとがつながり、行動し、続く変化を生む。2025–26 年度の「よいことのために手を取りあおう」（Unite for Good）と、2026–27 年度の「持続可能なインパクトを生み出そう」（Create Lasting Impact）を続けて読むと、ビジョン声明とのつながりが見えてきます。RI も、今年度のメッセージは、前年度に強められた会員同士や地域社会とのつながりを土台にしていると説明しています。[8]

RI 会長メッセージは、世界のロータリアンへの共通の呼びかけです。しかし、「持続可能なインパクト」をどのような行動によって生むのかは、クラブの置かれた地域や、積み重ねてきた活動によって違うでしょう。言葉を読み解くとは、その意味を覚えることだけではありません。「このメッセージは、私たちのクラブに何を問いかけているのか」と考えることではないでしょうか。

クラブ会長は、会員に何を示すのか

RI ブランドセンターは、クラブと地区に対して、次のように述べています。

"Clubs and districts should use the official presidential message rather than creating their own themes"

RI 公式日本語訳：「ロータリー内外でメッセージの一貫性を保つため、クラブと地区は、独自のテーマを作成するのではなく、公式の会長メッセージを使用すべきです。」[8]

公式日本語訳は「使用すべきです」です。私は、原文の should を、RI がメッセージの一貫性のために示す強い推奨として受け止めています。クラブ会長が自分の決意や方針を会員に語ることまで禁じる文言とは読みません。一方で、RI が独自テーマより公式メッセージの使用を明確に勧めていることも尊重したいと思います。これは RI の公式な解釈ではなく、原文を踏まえた私自身の受け止め方です。[8]

では、クラブ会長の年度テーマは、何を示すのでしょうか。先ほどの年次テーマと年次目標の違いが、ここでも手がかりになります。

クラブ会長の年度テーマは、年度目標を短い言葉に置き換えたものではありません。「この一年、私は何を大切にし、皆さんとどこへ進みたいのか」を会員に伝える言葉です。年度目標は、その方針のもとで何を実行し、何を目指すかを具体的にするものです。これは RI がクラブ会長テーマを正式に分類した説明ではなく、私自身がクラブでの役割を考えた整理です。

その土台には、全会員で作り、共有するクラブの将来像があります。

クラブビジョン → クラブ戦略計画 → クラブ行動計画 → クラブ会長年度テーマ → 年度目標と会員の行動。

クラブビジョンは、私たちがどのようなクラブでありたいかを示します。戦略計画はそこへ向かう道筋を描き、行動計画は取り組みを具体化します。これらは会長や一部の役員だけで決めるものではありません。全会員が考える過程に関わり、作り上げ、共有してこそ、クラブのものになります。

その共通の土台に立って、会長が「今年度、私は何を担い、皆さんに何を呼びかけるのか」を示す。そして会員とともに、その言葉を年度目標や日々の行動へつなげていく。会長の年度テーマには、その人自身の決意と、クラブが共有してきた方向の両方が表れるのだと思います。

もちろん、すべてのクラブでビジョンや計画が既に言葉になっているわけではないでしょう。だからこそ、会長エレクトがテーマを考える過程で、会員に尋ねてみてほしいのです。私たちのクラブが大切にしてきたものは何か。地域から何を期待されているのか。次の会長や会員が、その上に歩みを重ねられるよう、今年は何を積み重ねたいのか。

同じロータリーでも、同じクラブは一つもありません。RI 会長の言葉を共通の呼びかけとして受け止めながら、それぞれのクラブが、会員と地域に向き合う。世界のロータリーが目指す方向と、自分たちのクラブが目指す姿をつなぐのは、クラブにいる私たち自身です。

これから会長になる皆さん、そしてその後に続くクラブリーダーの皆さんへ。年度テーマの言葉を探すときには、まず会員の顔を思い浮かべてください。その言葉で、会員に何を示したいでしょうか。どんな一年を、ともにつくりたいでしょうか。

会長が代われば、年度の言葉も変わります。しかし、全会員で共有したクラブの将来像は、一年ごとに白紙に戻るものではありません。会員が得た経験、地域の人々と築いた信頼、うまくいかなかったことからの学びも、クラブの中に積み重なっていきます。

次の会長は、それを受け取り、自分の決意と方針を加えて、さらに一歩進める。そして次の会員、次のリーダーへつないでいく。年度テーマを考えるときには、自分の一年に何をするかとともに、クラブに何を積み重ねるかを考えていただきたいと思います。

参考資料・出典

[1] 国際ロータリー『ロータリー章典 2018年4月版』§27.030.5「Annual Theme」。RI会長が選ぶ年次テーマに関する旧規定。

[2] 国際ロータリー『ロータリー章典 2023年10月版』§27.060.1「Annual Theme」、§27.060.2「Annual Goals」。年次テーマと年次目標を別項目として規定。

[3] 国際ロータリー『ロータリー章典 2024年10月版』§27.060「Annual Goals」。年次目標の策定と承認に関する規定。

[4] 国際ロータリー「決議案24R-34」付属説明。英語原文／RI日本語版。年次テーマとロゴの作成廃止、および行動計画を軸とした会長メッセージへの移行についての説明。

[5] 国際ロータリー理事会『2026年1月会合議事録』決定第67号。年次会長テーマ再導入の提案に対する理事会の判断。

[6] 国際ロータリー『2025年決議審議会・採択結果報告書』決議25R-14。年次会長テーマの再導入を検討するよう求めた決議と投票結果。

[7] RIブランドセンター「ロータリーのビジョンとエッセンスの声明」、英語版／RI日本語版。
原文：“Together, we see a world where people unite and take action to create lasting change — across the globe, in our communities, and in ourselves.”
RI公式日本語訳：「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」

[8] RIブランドセンター「2026–27年度RI会長メッセージ」の「地区・クラブのテーマやメッセージ」、英語版／RI日本語版。
原文：“Clubs and districts should use the official presidential message rather than creating their own themes”
RI公式日本語訳：「ロータリー内外でメッセージの一貫性を保つため、クラブと地区は、独自のテーマを作成するのではなく、公式の会長メッセージを使用すべきです。」

ガバナーコラム 02
聞く、読む、その先に
― 気づきを、自分自身の変化へ ―

ある卓話から生まれた問い

先日、同期のガバナーが、あるクラブの例会でロータリーの歴史と思想について卓話をしました。その話を聞きながら、私の中にいくつかの疑問が浮かびました。

聞いている皆さんは、
どのようなことに興味を持っているのだろう。
この話から、どのような変化が生まれるのだろう。
そして、ここで受け取ったことを、誰に、何を伝えるのだろう。

歴史や思想を知ることの大切さを感じながら、その話が、聞いている一人ひとりにとって、どのような意味を持つのかが気になりました。
何のために知るのか。誰のために知るのか。そして、知ったことは、どこに、何につながっていくのか。

その問いは、ガバナーとしてセミナーを企画し、月信などで考えをお伝えしている、私自身にも返ってきました。私は、お届けしたものが皆さんの中でどう受け止められ、何につながるのかを、どれくらい考えているだろうか、と。

知ったことを、自分に結びつける

ロータリーの歴史を知ることで、先人たちが何に悩み、何を大切にし、何を変えてきたのかが見えてきます。その歩みは、自分たちのクラブで受け継ぐものや、これから変えていくものを考える手がかりになります。

思想や理念は、自分の仕事や暮らし、人との関わりを見つめるきっかけになります。組織や規則への理解は、クラブを自分たちで運営し、活動の可能性を広げる支えになります。

私たちが受け取るものは、知識や情報だけではありません。奉仕活動での経験、地域の人々の声、仲間の考え方。人との出会いや対話の中にも、自分を見つめ直すきっかけがあります。
同じ話を聞き、同じ文章を読んでも、心に残るところは人によって違います。それまでの経験や、その時の関心、抱えている疑問によっても変わるでしょう。

だからこそ、受け取ったものと自分自身との間に、どのようなつながりを見いだすかが大切になるのだと思います。

お届けしたいのは、気づきの機会

私や地区、国際ロータリーからお届けする情報や働きかけを、私は「気づきの機会の提供」と捉えたいと思います。
月信や資料、セミナーや研修、例会での卓話。それらを通じて何を感じ、何を問い、さらに何を知りたくなるか。その出発点は、一人ひとりの中にあります。

皆さんには、何か気になることがあったら、そこで少し立ち止まっていただきたいのです。
「自分には、どう関わるのだろう」

「私たちのクラブでは、どうだろう」
「なぜ、自分はこの言葉が気になったのだろう」

共感だけでなく、疑問や違和感も、自分で考え始めるきっかけになります。
すべてをそのまま受け入れる必要はありません。自分の経験に重ね、問い直すことによって、理解が深まることもあるでしょう。

自分の中の変化を感じる

話を聞いたり、文章を読んだりしただけで、自分が変わるとは限りません。
そこには、自分がどう向き合い、受け止めるかという姿勢や気持ちが関わります。

「自分にも関係があるかもしれない」
「これまでの考え方を、少し見直してみよう」
「この人の話を、もう少し聞いてみたい」

そうした気持ちの動きが、自分自身の変化の始まりになるのではないでしょうか。

変化は、必ずしも大きなものとは限りません。
今まで気に留めなかったことに関心が向く。仲間の意見に耳を傾けられるようになる。
自分の思い込みに気づく。
大切にしてきたことの意味を、改めて確かめる。そうした見方や振る舞いの変化もあります。

すぐに答えが出なくても、問いが自分の中に残り、後の経験と結びつくこともあるでしょう。その小さな動きを、自分自身で感じ取り、大切にしていただきたいと思います。

インプットからアウトプットへ

聞く、読む、経験する。そうして得たものを、自分の中でどう生かしていくか。その一つが、アウトプットです。
気になったことを仲間に尋ねる。
感じたことを自分の言葉で語る。
クラブで話し合う。
仕事や活動の中で試してみる。

誰かに伝えるときも、聞いた内容に、「私はこう感じた」「自分たちのクラブについて、こう考えた」という自身の言葉が加わることで、対話が生まれやすくなるのではないでしょうか。

また、語ろうとして、自分の理解が曖昧だったことに気づく。仲間の意見から、別の見方を知る。試してみて、新たな課題に出会う。アウトプットすることで、初めて分かることもあります。

そこから、「もう少し知りたい」「ほかの人はどう考えるのだろう」という思いが生まれる。気づきをきっかけに、自ら調べ、対話し、実践する。その経験が、次の気づきにつながっていきます。

私自身も、受け止める一人

機会を提供する立場と、そこから受け取る立場は、固定されたものではありません。私も、話を聞き、資料を読み、皆さんとの対話から気づきを得る一人です。

セミナーでの発言や、クラブで伺う経験には、私が考えていなかったことが含まれています。それを受け止め、自分の考えや次の働きかけに生かしていく。私自身にも、同じ姿勢が求められます。

皆さんも、感じたことや疑問を、ぜひ周りの仲間や私たちに聞かせてください。その一言が、誰かにとって新たな気づきのきっかけになるかもしれません。

互いの経験や考えを持ち寄ることで、私たちの見方や、クラブの可能性も広がっていくのだと思います。

その先をつくるのは、自分自身

私たちは、ロータリーから受け取ったものを、何につなげていくのでしょうか。

自分のロータリーライフを豊かにすること。
仕事や暮らしの中での判断に生かすこと。
仲間やクラブ、地域の人々との関わりを、よりよいものにすること。
そのつながり方は、一人ひとり違ってよいと思います。

ただ、外から届いた情報や刺激を、自分の中で育てていくことは、誰かに代わってもらうことはできません。

これからも、気づきの機会をお届けしていきます。そこで生まれた問いや心の動きを、ご自身の見方や振る舞いにつなげていただければと思います。

聞く、読む、その先に。

私自身も、皆さんとともに、気づき、考え、自分自身の変化を重ねていきたいと思います。

ガバナーコラム 03
問い続ける姿勢を大切に
― 自分の考え方を見つめ直して ―

ガバナーとして、さまざまな課題やテーマについて、皆さんと考える機会をいただいています。先日の前橋中央ロータリークラブへの公式訪問で、昨年度ガバナー補佐として私を支えてくださった小磯正康さんから、私の考え方に一貫して感じられる「思考の切り口」を整理した言葉をいただきました。

自分では、その時々の課題に向き合い、考えてきたつもりでした。しかし、一年間、ともに歩んでくださった方の視点から自分の考え方を捉えていただくことで、何を大切にしているのかを改めて知ることができました。

日頃の発言や働きかけを丁寧に受け止め、そこに通じる姿勢を言葉にしてくださったこと、そして、自分自身を見つめ直す機会をいただいたことに、感謝しています。

整理していただいた内容を受け止め、これまで考えてきたことも重ねてみると、私の思考の流れは、次のように表せると思います。

- 相手の声を聴き、課題の背景を考える。
  目の前の課題にどう対応するかとともに、そもそもなぜ生じているのか、根本的な原因に目を向ける。その際、関係する人たちの声を聴き、ともに課題を捉えることで、まだ気づいていなかった問題や可能性にも目を向ける。
- 私たちに何ができ、誰と一緒に取り組めるかを考える。
  ロータリアンが職業や日々の生活を通じて培ってきた経験、知識、つながりを、どう生かせるかを考える。自分たちだけでできるのかを問い、地域の人々や関係する団体と、それぞれの力を持ち寄る可能性を探る。
- 誰のために、何のために行うのかを確かめる。
  私たちが必要だと思うことと、相手が必要としていることが同じとは限らない。活動の目的を共有し、取り組みの途中でも立ち返る。また、関わる人が自ら考え、行動できるような取り組み方を大切にする。
- 活動の先に、どのような良い変化が続くのかを考える。
  実施した後も、地域や関係する人たちに何が残るのかを見据える。新たなつながりや、課題に取り組む力が育ち、その後の行動につながっていくかを考える。
- 自分たちも学び、次の取り組みへ積み重ねる。
  活動を通じて、私たち自身が何に気づき、どう変わったかを振り返る。得られた学びや関係を次の活動へ、次の担い手へとつなぎ、積み重ねていく。

これは、決まった順番で進めれば答えが出るという手順ではありません。

取り組む中で相手の声を聴き直し、課題の捉え方や目的を考え直すこともあるでしょう。それぞれの問いを行き来しながら、より良い取り組みを探っていく姿勢なのだと思います。

今回の整理を通じて、一つひとつの場面で考えてきたことが、どのような姿勢でつながっているのかが見えてきました。それは、これからの自分のあり方を考える上でも、大切な手がかりになりました。

もちろん、すでに十分にできているということではありません。忙しさの中で目の前の対応に追われることもあれば、自分の考えを先に置いてしまうこともあるでしょう。だからこそ、こうして言葉になった姿勢に、折に触れて立ち返りたいと思います。

ガバナーとして、私自身が問い続けるとともに、クラブや会員の皆さんが、それぞれの経験や地域の状況から考えを深め、自ら行動していけるよう、対話を重ね、働きかけていきたいと思います。そこから生まれる答えや取り組みは、一つではないはずです。

自分では十分に意識できていなかった姿勢に気づかせていただいたことへの感謝をし、これからの振る舞いや行動につなげながら、この問い続ける姿勢を大切にしていきたいと思います。

《ガバナーの独り言》

ロータリアンである前に

― 私の言葉は、相手にどう届いているだろうか ―

昨年度の同期ガバナーたちと、久しぶりに会った。近況を語り合ったあとの二次会で、河島英五の「てんびんばかり」を聴いた。

カラオケで聴いた歌だったが、歌詞が心に残った。男女それぞれの側から見た相手の姿。同じ出来事でも、立つ場所が違えば見え方が変わる。傷つき方も、同じではない。

聴きながら、自分のことを考えた。これまで私の言葉や振る舞いに傷ついた人がいたかもしれない。相手が傷ついていたことに、気づかないまま過ごしてきたこともあるだろう。今、身近にいる人の中にも、何も言わずに傷ついている人がいるかもしれない。

相手が笑っているから大丈夫だと思う。何も言わないから、気にしていないと思う。そんなふうに、自分に見えていることだけで判断してこなかっただろうか。

人を傷つける言葉を発する人にはなりたくない。けれども、自分にそのつもりがなくても、相手を傷つけてしまうことはある。だからこそ、言葉を発する前に立ち止まりたい。そして、傷つけたことに気づいたときには、言い訳をする前に相手の思いを聞きたい。

歌を聴いて、人との向き合い方を考えるうちに、もう一つ心に浮かんだことがある。

さまざまな事情の中で、自分の大切さを見失っているかもしれない若者たちのことだ。「自分なんて、どうでもいい」と感じ、自分の思いを伝えることを諦めている人がいるかもしれない。私は一人ひとりの経験も、胸の内も知らない。だから、その人の気持ちを決めつけずに、声に耳を傾けたい。その人が自分をどう思っていても、周りがどう評価していても、その人の大切さは変わらないと思うからだ。

自分自身の大切さに気づいてもらいたい。そして私も、相手の、他の人の尊厳を大切にしたい。自分には自分の思いがあるように、相手にもその人自身の思いがある。自分の言葉がどう届くかを考え、相手の言葉を聞く。まずは目の前の一人との関わりから始めたい。

「あなたは大切だ」と伝えたいと思う。けれども、こちらの思いを伝えるだけで、その人の気持ちが分かったことにはならない。相手が自分で考え、選ぶことも尊重したい。その人のために何をするかを考えるときにも、その人自身の声を聞くことを忘れたくない。

私はこれまで、会員のためのクラブ、地域に必要とされるクラブを、と話してきた。「ロータリーを開く」とも伝えてきた。その思いに変わりはない。ただ、あの歌を聴いて、言葉を掲げる自分自身の振る舞いはどうだろうかと考えた。

会員の声を聞くと言いながら、声に出せない思いを見過ごしてはいないか。クラブの自主性を尊重すると言いながら、自分の考えを先に置いてはいないか。クラブにも会員にも、それぞれの歩みがある。そのことを分かっているつもりになることにも、気をつけたい。

ロータリアンとして何を大切にするか。その前に、一人の人間として、目の前の人にどう向き合っているだろうか。

あの夜、歌を聴いて答えが出たわけではない。けれども、一度ロータリーから少し離れて考えたことで、もう一度見つめたいことが見えてきた。相手の、他の人の尊厳を大切にしたいという思いが、私の言葉や行動にも表れているか。その問いを、これからも自分に向けていきたい。



文庫通信 398号：過去に学び未来を探る

「創造の場に立ち会う（ロータリアン誌3 月号より）」ロータリアン誌編集部/友：1995・4 月/5P

「ロータリアン必携 来し方行く末 過去に学び未来を探る」塚原房樹/編纂委員会/2022/407P

「和敬静寂 思いやりの心」細谷伸夫/2026/266P

「会長代理挨拶」若林英博/（D.2590地区大会）/2025/4P

「戦後80年特別シンポジウム「平和の未来を語る」：千玄室氏コメント抜粋」（D.2740地区大会）/2024/2P

「原爆から生き残る（付：THE ROTARIAN 2018年1月号掲載文）」
川妻二郎（東京米山友愛RC翻訳/THE ROTARIAN 2018年1月号/2022/46P

「今、ロータリーを考える」刀根荘兵衛/（D.2600地区大会）/2024/5P

「ロータリーの力」滝澤功治/（D.2680地区大会）/2022/2P

「ロータリーって一体何だろう。その源流と行く末」　太田英章/（D.2670地区大会）/2021/10P

PDFの閲覧には「ユーザー名」「パスワード」が必要です。ご不明の場合は、各事務所またはロータリー文庫にお問い合わせください。

〒105-0013　東京都港区浜松町２丁目7番16号　第3小森谷ビル別館6階
TEL：03（3433）6456、FAX：03（3459）7506

表紙説明



タイトル: バラ(ピエール・ドゥ・ロン・サール)の咲くオベリスクにとまる駒鳥

作家名:登丸 清子
サイズ:24.5×35　画材:色鉛筆・紙

高崎市本町にある NPO 法人工房あかねが運営する障害福祉事業所「アトリエ ART・ON」では、利用者が自由に自己表現を楽しみながら創作活動に取り組んでいます。絵画や工作、刺繍など、スタッフと共に多彩な制作を行い、その成果は展示会への出展やアートグッズとしての展開など、さまざまな形で発信されています。

ガバナー事務所よりお願い

■ガバナー月信に関して

・原稿の締め切りは、毎月 15 日です。ワードまたはエクセル書式で作成の上、メール添付し竹中隆ガバナー事務所（takenaka@rid2840.jp ）まで送信してください。なお、写真等の画像がある場合は、デジタルデータでお送りください。

・新会員情報並びに訃報の締切りは、毎月 15 日です。（15 日以降のご連絡分につきましては、次月号の掲載となります。）新会員につきましては氏名、入会日、職業分類、勤務先、役職、推薦者氏名を記入の上、写真を添えて、ガバナー事務所ホームページの専用欄かメールにてお送りください。
なお、訃報につきましてはクラブ会長様に 250 字以内で追悼文を作成いただき、ご連絡をお願いいたします。

■ガバナー事務所に関して

・ガバナー事務所の開所時間は従前どおり午前 10 時から午後 5 時となっておりますのでよろしくお願いいたします。尚、原則として正午から午後 1 時までは昼休みとなっております。

■月信への寄稿のお願い

・毎月 1 日に発刊しているガバナー月信ですが、是非とも第 2840 地区の各クラブで行われた奉仕事業やクラブの自慢などを、月信に寄稿してみませんか？
原稿締め切りは毎月 15 日になります。原稿を 15 日以前にガバナー事務所宛にメールしていただければ翌月号に掲載させていただきます

Rotary

竹中 隆 ガバナー事務所

〒 371-0855 群馬県前橋市問屋町 2-2　前橋問屋センター会館 1F
TEL: 027-212-2840　FAX: 027-212-2841